

次ページへ続く

Continued on next page...

早稲田大学図書館蔵教林文庫目録稿

阿部好臣小峯和明
新藤協三田嶋一夫

一、本目録稿は、早稲田大学図書館所蔵の教林文庫（文庫7）の目録である。

一、本文庫の概略及び早大図書館に移った経緯については、「教林文庫考（寛書）」にまとめた。

一、目録作成にあたっては、早稲田大学図書館において作成されていた受入れ資料の書目リスト（書目番号、書名、冊数を記したものを参照したが、個々の書物に直接あたり、当館の書誌カードに採録し、若干の書誌事項（本のサイズ、装訂、冊数、写・刊の別、書写（刊行）年代、書写者、版元 保存状況など）を追加した。奥書など細部の事項は省略した。

一、写本、版本類と、活字本とに区分けし、活字本は書目番号と書名のみを別途に一括して掲げた。

一、書名は、書目リストに記されているものを極力尊重した。このリストでは内題または外題がとられているが、両者に著じるしく差がある場合には、そのいずれかを備考欄に注記した。また用字は特別の異体字を除いて常用漢字体またはそれに準ずる字体とした。

一、合写本、合綴本等も含まれているが、新たに書目をたてることをせず、注記として掲げた。

一、書目番号は、早稲田大学図書館におけるもので、配列はその書目番号による。

一、冊数は、書物の形態としての数量のみを記入し、内容に基づく巻数の表示は割愛した。なお、欠本類はわかる限り注記した。

一、今後は、この目録にもとづき、主要作品の文献解題・翻刻の作業を継続させていきたいと考えている。

一、本目録上の表記は、書名（著者）、寸法、装訂、冊数、刊行の別、刊行の年代、筆者、版元、備考の順である。著者表記は、該資料より判明するもののみにとどめた。備考欄は別題、奥書などを任意に記述した。

一、今回の目録稿の作成にあたり、早稲田大学図書館の格別の配慮と理解をいただいた。ことに整理課の山本信男課長、村井由敬主任、教育学部図書室の深井人詩氏、その他関係の方々にお世話になった。深く感謝申し上げます。

教本文庫考（覚書）

田 嶋 一 夫

教本文庫は、早稲田大学の図書館に、「文庫7」としてまとめられた一つのコレクションである。今回、本文庫の目録を作成するにあたって、本文庫の性格と概要について、簡単な覚書をまとめておきたいと思う。

目録上の総点数は一一一点。しかし今回全点を調査して見ると、合綴本、合写本などいくつか見られる。正確な書目数はおさえ難いが、これよりは若干増加すると思う。江戸期ないしはその頃と思われる写本、江戸後期から明治初期にかけての版本類が、比較的目につく。室町期もしくはそれ以前と思われる写本類も数点含まれている。これら古典籍の他、百点余の活字本も含まれている。内容から見れば、仏教書が中心である。その他には、日記、記録の類がいくつか見られる。文学関係のものでは、『猿蓑懺悔物語』（文庫7/128：以下教本文庫本を示す場合には、整理番号のみを示す）や、『三井住生伝』（240）などのように、作品自体が学界未見であつたものがある。また『日本霊異記』（150）、『江談抄』（896）、『続古事談』（898）、『四季物語』（955）、『山王縁起』（37）などの、説話文学関係の写本もある。その他、山王神道関係の資料や寺縁起などが少しまとまって存在している。この他の具体的な書目については今回の目録を見てほしいと思う。

ここで特に指摘しておくべきことは、筆者らの紹介以前にはこの教林

文庫及びここに蔵されている様々な資料は、ほとんど埋もれていたものであり、学界にはまったく知られていなかったことである。たとえば、『昭和／現在 天台書籍総合目録』（昭和十五年―十八年）にも、本文庫に関する記述はない。また『国書総目録』にも、本文庫の書目は収録されていないのである。

早大図書館所蔵の経緯

早稲田大学図書館において、本文庫を受入れたのは、昭和三十二年四月となつている。図書館当局の方々、及び福井康順博士に伺つたところでは、同博士が仲介の労をとられ、比叡山延暦寺の教林坊の資料を一括購入したものである、とのことであつた。しかし延暦寺内には教林坊という坊は存在しない。この間の事情は、第三者である筆者にはわかりにくい。

教本文庫の名称は、早稲田大学図書館に収蔵される際に、教林坊の蔵書であつたことから、あらためて名づけられたものと思われる。本コレクション中には、「教林蔵章」の朱印が多く見られるが、教本文庫の名称は見られないからである。

次に筆者がようやくしてたどりえた教林坊の現状と、本コレクションの形成の中心となつたと思われる辻井徳順師の事跡を紹介し、少々の考証と推測を試みておきたい。

教林坊の現状と辻井徳順師について

比叡山の延暦寺内には、教林坊という坊は存在しないが、延暦寺とは湖をはさんだ湖南の地の、滋賀県蒲生郡安土町石寺に教林坊の建物は現存する。西国三十二番札所として知られ、参詣に訪れる人も多い観音正寺の一坊である。

観音正寺は、近江源氏佐々木氏の祈願所であったが、それ故に佐々木氏の盛衰と寺運をとにした。かつては数多く存在した山坊も、現在は教林坊一坊を残すのみであるが、付近には多くの苔むした石垣や、武家の屋敷跡を残している。教林坊は、織山（きぬがさやま）に向かって、札所への参道から少しずれ、竹林をぬけた山すその杉林の中にひっそりとたたずんでいる。山石をたくみに組み合わせた庭園は、慶長年間の初め小堀遠州の作庭と伝えられている。今でも杉林と竹林の織りなす静寂な森が借景となり、深閑とした趣を伝えている。現在は付近に住む木瀬市右衛門氏が、鍵を預かり管理している。昭和五十七年の八月に訪れ、同氏に伺ったところでは、辻井徳順師の死後（後述するが同師の死は、昭和二十七年である）、そのゆかりの女性がつい先年まで住んでいたが、老いがはげしくなったため、付近のひとびとが相談して施設にいたったので、今は無住となっている、とのことであった。同氏にご案内いただき、庭園と、坊内を見学することができたが、現在の教林坊は茅葺の書院風の主屋と、土蔵があるものの、書籍類はまったく残っていないかった。わずかに徳順師遺愛の品であったかと思われる硯が、文机の上に置かれ、きれいに掃き清められた庭園に対しており、徳順師の生前の姿を偲ばせ

ていた。まことに残念ながら、教林坊は在りし日の外形をとどめるだけなのであった。

辻井徳順師は、教林文庫中の『辻井徳順履歴』（注1）によれば、幕末の元治元年（1864）の三月二十三日に、近江の国野洲郡祇王村大字北の、木村源五郎の次男として生まれている。祇王村は『平家物語』に登場する白拍子の祇王、祇女に因んだ村名である。現在は野洲郡野洲町大字北である。教林坊からおおよそ三、四里位のところであろうか。以下同書を中心に徳順師の人となりを瞥見してみよう。

明治十年九月三日、十三才の時であるが、滝本徳性師に従って得度し、昭和二十七年十二月八日に円寂している。時に八十九才であった。

明治十年の得度、加行の後、明治十六年灌頂、十七年沙弥戒、十八年円頓戒を受け、二十年豎義を遂業、三十六年に阿闍梨開壇を伝法、四十三年出家灌頂、翌四十四年戒灌頂を受けている。

若年の時から勉学の機会にも恵まれ、明治八年（十一才）より滝本徳性師について、内外典を修学、同十五年（十八才）より中学林へ、同十八年大学林に進み、二年後の遂業に至るまで学問にいそしみ、さらにその後も哲学館講、早稲田大学高等国民講なども受講している。

次にその教職を列挙してみると、

明治11年 教導職試補

18年 権律師

20年 大律師

24年 権少僧都

30年 少僧都

同年9月 僧都

34年 権大僧都

40年 大僧都

45年 権僧正

大正 2年 僧正

6年 権大僧正（盛門）

昭和 7年 僧正

となつてゐる。大正二年の僧正と昭和七年の僧正と二度同位をえているのは、理解に苦しむが、おそらくその間の権大僧正を盛門（天台宗真盛派）から受けているから、大正二年の方は盛門派から受け、あらためて昭和七年に山門から受けているものかと思われるが、確実なことは後日調査したいと思う。

また、住職の關係は次のように記されている。

明治17年 願成就寺

28年 教林坊

33年 観音正寺兼住

39年 比叡山別格三等五智院兼住

40年 善光寺別当大勧進副住持命

43年 小樽浅草観音寺事務担当

大正14年 教林坊住職

同年 東南寺兼住職

昭和 3年 再兼住

この他、明治四十三年の小樽浅草観音寺事務担当から、大正十三年九月に西来寺住職を依願解免され、翌十四年の八月に教林坊に再住するまでの間は、盛門派で活躍している。まず明治四十五年六月十日に盛門顧問職に就き、数日後の同月十六日に西来寺住職となっている。西来寺は、現在も三重県津市の乙部寺町にある天台宗真盛派の別格本山である。本寺は、天保の頃、広く古書をあつめ、西来寺版を出版した名刹である。徳順師が盛門派に転じた事情は明確ではない。しかしこの明治四十五年以前の三十四年四月一日に盛門学林専門講師になつてゐることなどからして、その關係は相当早くからはじまつていたものと思われる。また盛門に転じたとは言え、山門に背を向けたという性格のものではなかつたように思われる。それは、盛門転派中の大正八年四月三十日に、延暦寺本山山林経営の功により袈裟一領を下賜されていること、西来寺住職の項に「本山ノ勧請ト門末檀信徒ノ特請ニヨリ転派転住ス」とわざわざ記されていること、大正十三年の山門復帰が、「法脈相統ノ為」と記されていること、等々から考えられよう。

こうした住職を勤めた寺々のうち、願成就寺は、聖徳太子伝説を有する古刹であり、近江八幡市に現存する。東南寺は、この付近に、戸津説法の行なわれる道場として著名な寺（大津市下坂本）と、織山桑実寺の別院で最澄開基を伝える寺と、二つあるが、おそらく後者であろうか。また明治四十年の二月から勤めた善光寺別当大勧進副住持命、同四十三年九月からの小樽浅草観音寺事務担当、先の西来寺住職などの、ごく一

部の仕事を除けば、その九十年に及ぼんとする生涯の大半を、この近江の地で過ごしたのであろう。また中学林で学ぶようになる以前の滝本徳性師に師事していた幼年時代。その晩年、それは大正十四年八月に六十才で教林坊住職となった以後の二十七年間であるが、東南寺を兼住した他は、他住の記録がない。これらのことを考えると、幼年時代とその晩年の大半は、この静かでふるさともごく近い教林坊に住したのであろう。

わずかな資料の中から、徳順師の生涯を垣間見るとき、僧侶として学僧として、その旺盛な知識欲と、真理への探求心をもって、その生をまっとうしたように思えてくる。今、早稲田大学図書館の所蔵する教林文庫は、その徳順師の生涯と深いかかわりをもっているであろう。

教林文庫伝来の一端

教林文庫の蔵書形成について、おおまかな推測を試みるならば、そのルートは次の五点にまとめられるだろう。

(1) 師僧徳性師より伝領を受けたもの、或は徳順師以前から教林坊に存在するもの。「滝本」の朱印があるもの、及び徳順師が徳性師より伝領した旨のメモのあるものがある。また単に「教林蔵章」の朱印のあるものがある。これらは徳順師以前から存在していたものと思われる。いわば教林文庫形成の核とも言うべきものであろう。

(2) 徳順師が住持となつてから後、他寺から伝来したもの。

本寺である観音正寺の「観音正寺什物」の朱印のあるもの、伊勢の西

来寺の「西来寺蔵」の朱印のあるもの、或はそのものを書写した旨の奥書のあるものなどがある。これらは徳順師の積極的な収書活動をものがたっている。

(3) 鶏頭院本覚蔵であったもの。

「鶏頭院本覚蔵」の墨印、「鶏頭院蔵」の朱印を有するものが多い。これらの中には、鶏足院の覚深が書写したもの、鶏頭院の嚴覚が書写したもの、嚴覚が覚深から伝領したもの、嚴覚関係の人物が書写したもの、嚴覚が校を加えたものなどが多く含まれている。これらの典籍と教林蔵、徳順師とのかかわりなどは、不明である。またこの中には外典類も多く、国文学研究に身を置く立場の者からは、最も注目すべきものが集中している。

(4) 徳順師自身が書写したもの。

この中で最も書写年代が古いものは、明治九年で『考経国字疏』(909)を写している。比較的遅い時期の書写は、『円頓戒口訣集』(605)の昭和十一年などである。明治十五年頃からほぼ十年間位、彼の修学時代でもあるが、この間にことに積極的な書写を行なっている。その数は四十数点に達すると思うが、内容的にはほぼ内典類である。

(5) その他

以上の(1)から(4)までに含まれないものであるが、今後詳細に調査していく中で、典籍の流れがより明確となるであろう。

鶏頭院、鶏足院及び嚴覚、覚深について

教林文庫の中で量的にも、内容的にも重要な意味を持つ鶏頭院、鶏足院の二院と、多くの書写を行なった嚴覚と覺深の両名について、これまでに知り得たことを記しておきたいと思う。

鶏足院は、法曼院、正覺院、總持坊、行光坊とともに五箇灌室の一つである。『横川各院歴代記』（注2）によれば、元龜以後、歴代次の人々が住持している。次の鶏頭院とあわせて示す。下段が鶏頭院である。

第一世	兼秀	兼秀
第二世	榮源	榮源
第三世	良俊	順長
第四世	光芸	臻海
第五世	光秀	日海
第六世	臻海	山海
第七世	実応	山舜
第八世	豪憲	嚴覚
第九世	覺深	天忠
第十世	円瑜	真源
第十一世	妙橋	
第十二世	泰通	
第十三世	真源	

鶏頭院は、もとの名を本住坊と言い、第五世の日海の時、鶏頭院と改めたと言う。また兼秀によって再興された旨記されている。その住持は、先に示したように兼秀、榮源、臻海、真源が両院に住している。天忠も

晩年鶏足院に転じた旨記されている。また臻海のところに「慶長年中新建鶏足院」と記されている。元龜の焼討の後、兼秀によって再興された両院が、臻海の坊舎建立によって、完成されたことを意味しているであろう。このように両院の間はきわめて密接な関係が知られるのである。鶏足院第九世の覺深は、次のように記されている。

第九世覺深字非隣

自号天均子。実応弟子。延宝九年十月從靜光院移住。同六年四月奉勅三季修秘密具。貞享三年八月禁裏饗法御講任大僧都。元禄二年十月望擬講。六年補擬講。同十年領淨蓮台院室。同月補探題。十二年四月十九日授累代相承卯明於円瑜。同六月任權僧正。移正覺院。

改名豪寛。生年著述山王知新記。三大師伝各三卷。瀧尾權現靈託記。樹下御法。貞享三年 禁裏御八講記。大会新記。元禄宝永東国紀行。小夜千鳥。天台大師和讃注。各一卷及校定者甚多不尽記。

生没年等は、はっきりしないが、実応の弟子であること、貞享三年大僧都に任ぜられていること、元禄六年擬講、同十年探題に補せられていること、また生涯にわたって著述をなしたこと、多くの校訂を行なったことなどが知られる。また『小夜千鳥』などと書名から推して文学書と思われるものが含まれていることや、校訂という基礎的研究に着手していたことが伺えて興味深いものがある。

一方の嚴覚は、鶏頭院の八世として、続いて恵心院の十一世として次のように記されている。

第八世嚴覚字洪道

大伴連道臣命裔孫。紀州那賀郡粉河産也。父忠益、母木村氏。万治二年己亥十一月朔（戊初刻）生。寛文十年三月四日登山。四月十八日於本山祝髮請惠心院探題權僧正実応為戒和上。同十二年夏修三部法。同秋從豪建阿闍梨受灌頂。延宝六年三月入院。年二十。元禄五年四月七日修聖天供。竟同年十月廿八日修八千枚護摩。同六年三月十七日被補別当代。七月三日任大僧都。九月南禅寺 東照宮遷宮為八座問者。十一年九月三日東叡山中堂落慶為讚衆。十四年六月解別当代役。同十五年七月修東南寺說法。（十六年十一月十日秘密参社）宝永元年三月為新礼拝講勸進。十月望擬講。同三年六月建立表門。同五年春買得左麓別房。二月親王新殿安鎮為東北方阿闍梨。同八月補法華二會講師。六年五月 仙洞新殿 安鎮為西南方阿闍梨同冬為青蓮院宮御師範。（七月 日為柳原從一位大納言藤資廉子）七年九月三日為別請豎義一問。正徳元年八月廿六日補探題。廿七日賜楞伽院室。正徳三年八月十二日任權僧正。廿八日拝謝。九月三日為別請豎義探題。四年廿六日 准后大王陞移惠心院。

惠心院

第十一世探題大僧正別當嚴寛字洪道

正徳四年正月廿六日 輪王寺准后大王陞移惠心院。三月五日補別當。又五六両日法皇召山僧令論議法教主三惑同断也。為両 証義。六年三月九日転正廿八日拝謝。七月八日補吉野山学頭。九月廿八日於江城拝謝。十月廿九日登吉野山。

享保三年戊戌正月廿五日為元応寺戒和上。三月廿八日入院四年己亥

四月廿四日転大。廿八日拝謝。五年庚子。七月十七日寂寿六十二。戒五十。瘞全身於陀峯。

万治二年（1659）に生まれ、寛文十年四月に惠心院探題權僧正実応に請うて祝髮し、同十二年には豪憲阿闍梨（実応の弟子で覚深に「師資相承印明」を授けたと、鶏足院八世の項にあり）より灌頂をうけている。以後順調に法位も進み、正徳元年には探題に補せられ、同四年惠心院の別当となり、享保五年（1720）六十二才で寂寿している。また教林文庫本の奥書きによれば、円朗、実舜等の号も用いている。

ここからは、覚深との直接の交渉はうかがえないが、先に見た鶏足院、鶏頭院との関係、師を等しくすることなどから、両者の密接なことが知られる。また教林文庫本の奥書には、覚深のものを嚴寛が伝領した旨の書きつけのあるものがある（例えば『江談抄』896、『山王権現略縁起』38など）。教林文庫本をととして見た叡山内に於ける覚深、嚴寛の両名を中心とした資料の書写活動、対校活動は、単なる両名の私的な趣向によるものだけではなく専門職的なものを感じる。この点は非常に気になるところであるが、ひとまずここでとどめておきたいと思う。

最後に

本目録の作成によって、教林文庫の全貌が把握しやすくなった。この貴重な資料が、今後いっそう学界で活用され、学の発展に寄与するであろうことを望んでいる。

早稲田大学図書館においては、すでにカード目録が作られており、他

の書目とともに書名目録の中に配列されており、検索し利用する事は可能であった。

今回私たちに教林文庫全体の調査を御許可くださり、さらにこのような冊子体の目録を、作成することを許可してくださった早稲田大学図書館に感謝申し上げます。

(1985、2、7)

注1、文庫7/1111、観音正寺の野紙に墨書されたものを写真撮影したもの。

注2、文庫7/241、本書は外題が「横川各院歴代記」である。内題は「六谷各院主僧記正徳三年追更」。内容は以下の六谷各院の歴代の主僧を記したものである。都卒谷(恵心院、鶏頭院、禪定院)、樺尾谷(定光院、戒光院、大慈院)、飯室谷(松禪院、長寿院、円乗院、唯心院、華徳院、戒定院)、般若谷(一首院、覚定院、妙光院)、戒心谷(瑞応院、大林院、龍禪院)、解脱谷(華蔵院、慧雲院、南楽院)。原本は、正徳三年の成立と思われるが、それ以後のことも書き加えられている。また天台宗全書二十四巻に「横川堂舎並各坊世譜」(正徳年中山門執行代智湛法印の輯成したもの)が、収められているがほぼこれと内容を等しくする。本書には「本奥書云」として、「寛政十年戊午仲春以本院記家之蔵本令書写之者也 大僧都真超誌」と記されている。

付1、鶏足院、鶏頭院の「鶏」はすべて「雞」の字体が用いられている。本稿におい

ては印刷の都合上「鶏」に統一して表記した。

付2、これまでに教林文庫に関し、紹介、資料の翻刻、研究を行なったものには、次の文献がある。なお(1)(2)(3)等の中では、教林文庫を所在がつかめないままに叡山内のもので考えていた。(7)の中でそのまちがいをはじめて訂正したのであるが、改めて本稿において訂正する。

(1) 田嶋、「教林文庫蔵『三井往生伝』」(資料紹介)、説話文学研究8号(昭和48年6月)

(2) 田嶋、「教林文庫(早大図書館蔵)のことについて」、日本文学、23の8(昭和49年8月)

(3) 田嶋、「『猿鹿懺悔物語』について―信長の叡山焼討と文学に関する一考察―」、国語と国文学、51の9、(昭和49年9月)

(4) 田嶋、「早稲田大学図書館教林文庫『猿鹿懺悔物語』」(翻刻)、国文学研究資料館紀要、3号(昭和52年3月)

(5) 田嶋、小峯、播摩、「教林文庫本『三井往生伝』翻刻と研究」、中世文学資料と論考(伊地知鉄男編、昭和53年11月 笠間書院刊)

(6) 田嶋、「地蔵尊利生記」(翻刻)、『国文学未翻刻資料集』(大久保正編、昭和53年11月 桜楓社刊)

(7) 田嶋、「教林坊を訪れて」、わせた国文ニュース 37号(昭和57年11月)

- 6 伊勢二所太神宮神名秘書(度会行忠)
28.1 × 19.9 袋 一冊 写
宝永五年 嚴覚
- 8 神名帳頭註
27.8 × 19.9 袋 一冊 写
宝永四年 嚴覚
- 9 吉田流元本宗源神通抄
28.4 × 19.9 袋 一冊 写
元禄八年 寛深
- 10 神国決疑編
24.2 × 17.0 袋 一冊 写
天明三年 真暇
良謠校訂
- 11 神国決疑編附神字弁撮要・三教円論
23.4 × 15.8 袋 一冊 写
天保八年
- 12 神代卷見聞集
- 13 神道伝授
27.5 × 19.5 袋 一冊 写
天和三年 嚴覚
- 14 卜部行事神道秘決
19.1 × 15.9 列 一冊 写
元禄十二年 寛深
- 15 俗神道大意
22.7 × 15.7 袋 四冊 刊
江戸末
- 16 豊葦原神風和記〔慈遍〕
29.0 × 19.8 袋 一冊 写
貞享三年 嚴覚
- 17 豊葦原神風和記〔慈遍〕
29.0 × 19.8 袋 一冊 写
貞享三年 嚴覚
- 18 月譚貴本紀
28.6 × 18.9 袋 一冊 写
延宝五年 寛深
- 19 日本問答
27.9 × 19.2 袋 一冊 写
寛文十年 教光院寛照
吉田家秘書書
- 20 愚昧記
27.8 × 19.6 袋 五冊 写
寛文十年 藤原内房
一冊仁安、二冊嘉応、三冊嘉応、文治、
四冊消息、五冊雜記、寛深の校あり
- 21 神道相伝抄
27.9 × 19.6 袋 一冊 写
寛深
右一冊正覚院探題前大僧正聚寛手書也。
従高弟円瑜法印給之。宝永四年雞頭院
嚴覚記

22 親長記〔甘露寺親長〕

27.2 × 19.5 袋 一冊 写

延徳三年の一年分 厳覚所持本

23 長興記〔小槻長興〕

27.9 × 20.4 袋 一冊 写

元禄九年 寛深

宝永五年伝領厳覚

24 太神宮瑞相記

26.4 × 19.1 袋 一冊 写

延宝二年 寛深

内題 伊勢太神宮瑞相鎮守仙宮秘文

25 伊勢二所御鎮座伝記

27.7 × 19.7 袋 一冊 写

延宝八年 実仙 助筆円雅

厳覚蔵

26 熱田太神宮縁起

27.3 × 19.6 袋 一冊 写

元禄九年 寛深識語

27 神宮読秘伝問答

27.1 × 19.4 袋 一冊 写

貞享二年 寛深

伝持厳覚

28 豊受皇太神御鎮座本紀

27.5 × 19.7 袋 一冊 写

延宝五年 寛深

正徳辛卯五月 雞頭院騰写 厳覚

29 外宮儀式帳

28.2 × 19.6 袋 一冊 写

貞享二年 寛深

止田気太神宮儀式帳

30 倭姫命世紀

28.6 × 20.0 袋 一冊 写

貞享元年 助筆亮覚

厳覚識

31 宇佐宮縁起

27.9 × 19.9 袋 一冊 写

江戸中期

32 江島三社弁財天来歴

23.8 × 17.1 袋 一冊 刊

寛延二年

33 唐崎明神縁起

14.8 × 20.9 袋 一冊 写

天明二年 厳覚

表紙に「雞頭院天忠」の署名あり

34 江陽国鑑 日吉社記録

28.0 × 19.8 袋 一冊 写

延宝七年 実舜（厳覚）

35 御礼拝講之記

27.5 × 19.4 袋 一冊 写

享保四年 厳覚

36 山王絵詞目錄

37	山王縁起 27.6 × 19.4 袋 一冊 写 天和二年 円雅	38	山王権現略縁起 28.7 × 20.7 袋 一冊 写 元禄八年 寛深	39	日吉山王秘伝記 27.9 × 19.5 袋 一冊 写 延宝八年 円朗(厳寛)	40	勘進山王記 26.9 × 19.3 袋 一冊 写 正徳三年 厳寛	41	山門噉訴記 27.5 × 19.9 袋 一冊 写 元禄元年 寛深		
42	(春日大明神) 春夜神記 27.7 × 20.1 袋 一冊 写 元禄七年 寛英	43	成弁勧化状 23.6 × 16.5 袋 一冊 写 宝永六年 厳寛	44	白鬚明神縁起〔実教房実観〕 23.6 × 16.6 袋 一冊 写	45	神祇拾遺 29.0 × 20.7 袋 一冊 写 元禄六年	46	住吉四社御本地事 28.1 × 19.9 袋 一冊 写 貞享三年 恵寛	47	諏訪大明神画詞 28.2 × 20.0 袋 一冊 写 元禄三年 寛深
48	駿州久能記 27.7 × 19.7 袋 一冊 写	49	一宮記〔吉田兼右〕 21.5 × 14.8 袋 一冊 写 宝永七年	50	東照宮縁起 27.8 × 19.8 袋 一冊 写 元禄十六年 厳寛	51	戸隠山顕光寺流記 28.0 × 19.8 袋 一冊 写	52	二十二社記 27.7 × 20.3 袋 一冊 写 寛文十年 寛照	53	八幡宇佐宮御託宣集 28.1 × 19.9 袋 二冊 写

59	日吉山王雜記〔祝部行丸〕 27.8 × 19.5 袋 一冊 写	58	日吉山王記 27.9 × 19.7 袋 一冊 写 延宝九年 嚴覚	57	日吉山王本地并位階形像記 27.6 × 20.0 袋 一冊 写 元禄八年 嚴覚	56	日吉御神衣神宝帳 14.8 × 21.0 袋 一冊 写 元禄六年 嚴覚	55	八幡愚童訓 28.4 × 20.2 袋 一冊 写 元禄九年 覚深	54	八幡宮縁起 27.3 × 19.3 袋 一冊 写 享保三年 嚴覚
65	元徳二年 日吉社並叡山行幸記 三月	64	日吉七社遷宮略記〔貞享四年丁卯十二月〕 27.8 × 19.7 袋 一冊 写 覚深	63	日吉山王靈驗記 20.9 × 14.9 袋 一冊 写 元禄七年 嚴覚	62	日吉山王参社次第 27.9 × 19.5 袋 一冊 写 天和年間 嚴覚	61	日吉山王参社次第 14.8 × 20.9 袋 一冊 写 元禄十年 嚴覚	60	日吉山王雜記 27.7 × 19.5 袋 一冊 写
70	豊前国香春社記 27.4 × 19.2 袋 一冊 写	69	広瀬社縁起 27.9 × 19.9 袋 一冊 写 元禄十一年 覚深 卜部兼右自筆本を書写した旨の覚深の 識あり	68	日吉参社私記 14.2 × 20.0 袋 一冊 写	67	日吉参社次第記 14.2 × 20.4 袋 一冊 写 天和元年 恵覚	66	日吉本紀〔謙忠撰〕 28.7 × 20.0 袋 一冊 写 貞享二年 嚴覚識語あり		28.1 × 20.6 袋 一冊 写 天和二年 覚深

正徳五年 厳覚

71 天光山武日寺松豊八幡宮縁起

27.4 × 19.2 袋 一冊 写

貞享四年 寛深識

72 三輪神社独案内

24.2 × 17.2 袋 二冊 刊

他に「加賀国白山松神宮開帳之目録」

(元禄十六年版本)、「富士山略縁起」

(宝暦十二年版本)を合冊

73 吉野山金剛蔵王権現神託記

23.5 × 16.8 袋 一冊 写

寛文七年 孟遍

74 日吉祠官叙爵記

24.0 × 16.9 袋 一冊 写

延宝九年

内題「日吉祠官樹下生源寺叙爵略記」

75 日吉社宮仕叙爵記

23.4 × 16.0 袋 一冊 写

76 応安年中日吉神興入洛記

28.8 × 19.9 袋 一冊 写

貞享五年 厳覚

77 おもひのまゝの記(一条兼良)

29.0 × 20.9 袋 一冊 写

正保二年

78 賀茂祭記

28.2 × 19.9 袋 一冊 写

元禄七年 寛深識

79 祇園会細記

22.6 × 16.1 袋 一冊 刊

宝暦七年 山本長兵衛他

80 山王記并印信

28.0 × 19.5 袋 一冊 写

貞享元年 厳覚

82 山王秘密社参記

14.3 × 20.4 袋 一冊 写

元禄十六年 祝部行茂

83 山王物忌令

14.6 × 20.9 袋 一冊 写

貞享元年 厳覚

84 神祇灌頂次第

24.3 × 17.2 袋 一冊 写

85 東照宮百五十回御神忌記(良謹)

20.5 × 14.2 袋 一冊 写

明和二年

86 日吉祭礼新記

29.2 × 20.0 袋 一冊 写

元禄二年 厳覚

とびら題「月のかつら」

87 日吉社年中行事(祝部行鷹)

28.0 × 19.7 袋 一冊 写

- 87 宝永三年 叡寛
- 88 日吉社服忌令
21.0 × 15.0 袋 一冊 写
貞享元年 叡寛
- 89 日吉神輿御入洛見聞略記
23.7 × 17.5 袋 一冊 写
正徳元年 叡寛
宝永三年豪寛が彰考館本を書写、これを叡寛が書写した旨の奥書あり
- 90 八幡放生会次第
28.1 × 20.0 袋 一冊 写
延宝七年 寛深
- 91 神秘根元抄
15.0 × 21.0 袋 一冊 写
叡寛
- 92 松下抄中臣祓私記〔松下見林〕
28.5 × 20.5 袋 一冊 写

- 93 竜氏祓之鈔
27.7 × 19.2 袋 一冊 写
慶安五年 與邨弘正
- 94 日吉祭礼祝言
27.2 × 19.0 袋 一冊 写
正徳五年 叡寛
- 95 豊秋津嶋卜定記
28.0 × 19.8 袋 一冊 写
貞享二年 恵寛
- 99 宗徳経
26.4 × 18.8 袋 一冊 刊
延宝四年 戸嶋掇兵衛
- 100 神教経
26.4 × 18.8 袋 一冊 刊
延宝四年 戸嶋掇兵衛

- 101 日吉廊御子記
23.7 × 16.8 袋 一冊 写
元禄六年 叡寛
- 102 八雲神詠大事
23.7 × 17.3 袋 一冊 写
宝永六年 叡寛
- 103 澆末自訟録〔慈寺〕
27.3 × 19.2 袋 一冊 写
慶応三年 亮海
- 104 刪補案立附録佛部
23.5 × 17.0 袋 一冊 写
江戸後期
- 109 発菩提心説〔靈空和尚〕
25.7 × 18.3 袋 一冊 写
江戸後期
享保庚戌臘月、智周識〔朱筆〕あり
- 115 出定笑語附録

123	121	118	117	116	
并下駄菩提樹栗問答 24.4 × 17.0 袋 一冊 写 江戸後期	杜多雜稿 17.5 × 12.6 列 一冊 写 江戸末か	東西頭偽弁 28.0 × 19.8 袋 一冊 写 江戸中期	駿河於殿中 <small>南光坊天海 林道春</small> 問答書 16.4 × 11.8 袋 一冊 写 江戸後期	儒道眠覚 24.9 × 17.0 袋 一冊 写 宝暦十二年 湖東大橋村慶崇釈氏某誌	23.4 × 15.9 袋 三冊 刊 平田先生講談 門人等筆記
133	131	130	129	128	126
地藏尊利生記	現実等象儀詳説〔佐田介石〕 23.5 × 15.9 袋 一冊 刊 明治十三年 和泉屋庄治郎他	三毒名義弁 24.2 × 16.7 袋 一冊 写	三塔巡礼記 23.5 × 17.0 袋 一冊 写 「此書扶桑拾葉集ニ載、三塔巡礼記 厳覚」(二丁才)とあり	猿鹿懺悔物語 23.7 × 16.7 袋 一冊 写 宝永六年 厳覚	愚迷発心集 26.0 × 19.0 袋 一冊 刊 内題は并下駄之弁
138	137	136	135	134	
北辰妙見経和訓図会〔真脱菴織月〕	出家功德誌 24.0 × 16.1 袋 一冊 写 江戸後期	十七兼題略記〔酒井最正〕 22.8 × 15.4 袋 一冊 刊 明治七年 西京書林 西村七兵衛、山内正五郎合刻	釈氏往来 23.8 × 16.8 袋 一冊 写 宝永五年 厳覚 朱あり	地藏菩薩一万体印行縁起〔徳春〕 23.3 × 16.2 袋 一冊 刊 嘉永五年	23.4 × 17.0 袋 一冊 写 江戸後期

148	天地論往復集・初編〔佐田介石〕	145	説法百華園〔智洞如達〕 25.0 × 17.2 袋 一冊 刊 寛延四年 菱屋友五郎〔沢田文栄堂〕	141	随意説教聴書〔吉水玄信〕 22.3 × 15.1 袋 一冊 刊 明治七年 西山堂	140	水灌本紀 28.0 × 19.0 袋 一冊 写 延宝九年 寛深	139	成佛の直路 26.1 × 18.4 袋 一冊 刊 寛政三年 小川多左衛門 「始終心要姻訓」〔慈等〕、寛政三年版を合刻	24.5 × 17.3 袋 三冊 刊 嘉永三年 藤屋善七他
154	新撰佛舍利験伝〔叡嶽納堂上人〕 26.0 × 18.9 袋 一冊 刊 柳枝軒 跋題 舍利験伝	153	佛教覺夢論・初編・全〔玉樹遊楽〕 22.6 × 15.5 袋 一冊 刊 明治十九年 洛陽御影堂	150	日本国現報善惡靈異記 28.0 × 19.8 袋 一冊 写 宝永五年 厳覚	149	二十八題弁略・十一題之部・十七題之部〔瑕丘宗興〕 22.4 × 15.8 袋 二冊 刊 明治七年 永田文昌堂 「説教調究」の角書あり	23.2 × 15.4 袋 一冊 刊 明治十四年 佐田介石		
163	覚鑊送号山門群議 23.4 × 16.9 袋 一冊 写 宝永六年 厳覚 内題「天文十年辛丑正月 覚鑊大師号山門群議」	162	慈威和尚伝 28.8 × 19.7 袋 一冊 写 元禄二年 厳覚 内題「閻浮受生大幸記」	157	曆策進〔円通〕 22.4 × 15.7 袋 一冊 刊	156	仏説座頭訴状 23.4 × 16.4 袋 一冊 写 宝永五年 厳覚 元奥書は延宝二年	155	佛神感應録 26.8 × 18.0 袋 一冊 刊 後集四のみ	

- 165 近世
現瑞 淡海念佛往生伝
27.0 × 19.1 袋 二冊 刊
刊記不明
- 166 元応寺列祖記
27.6 × 19.9 袋 一冊
江戸中期
- 168 元享釈書
29.5 × 20.5 袋 六冊 刊
刊年不明
- 169 慈恵
恵 両大師伝記
26.0 × 17.9 袋 五冊 刊
書林森江佐七
内題「元三
慈恵 両大師伝記」
- 172 三国仏法伝通縁起
24.6 × 17.7 袋 一冊 刊
明治九年 京都書林永田調兵衛他三名
- 173 三国仏法伝通縁起
22.3 × 15.3 袋 一冊 刊
明治十年 京都沢田友五郎他三名
- 174 山門日吉活套記
28.8 × 19.6 袋 一冊 写
外題注記「慈覚智證両大師門徒確執
日吉神興動座之事 山門破滅之事」
- 175 慈恵大師本伝
25.7 × 18.5 袋 一冊 刊
内題「慈恵大僧正伝」
- 176 元三慈恵大師正伝〔秀雲〕
25.6 × 18.4 袋 一冊 刊
内題「慈恵大僧正伝」
- 177 元三大師御遺告
26.9 × 19.1 袋 一冊 写
元禄四年 寛深
内題「御廟大師御遺告」
- 178 慈恵大師御遺告
27.6 × 20.0 袋 一冊 写
元禄十三年 厳覚
- 179 慈恵大師秘密略法伝受誓規
慈恵大師秘密略法相承次第
慈恵大師秘密略法血脈譜
21.6 × 13.9 袋 一冊 写
宝暦六年 良謹
- 180 慈恵大師伝〔蘭坡〕
28.8 × 19.7 袋 一冊 写
貞享三年 厳覚
- 181 慈恵大師別伝
28.2 × 20.3 袋 一冊 写
元禄二年 厳覚
- 183 慈覚大師伝
28.8 × 19.7 袋 一冊 写
元禄年間 厳覚

190	189	188	187	186	185	184
釈家官班記	釈家官班記	下請府集〔小槻時元〕	悉地菩薩遺続集	諡号雜記	慈眼大師伝	慈覚大師伝
	27.5 × 19.5 袋 一冊 写	27.6 × 19.9 袋 一冊 写	27.8 × 19.6 袋 一冊 写	27.5 × 19.9 袋 一冊 写 元禄二年 厳覚	28.1 × 20.0 袋 一冊 写 宝永五年 厳覚	27.5 × 20.2 袋 一冊 写 元禄四年 慈體

194	193	192	191
書写上人縁起	青蓮院殿系譜	常州千妙寺列祖伝	釈家官班記
27.4 × 19.5 袋 一冊 写 近世中期 外題は「書写上人伝」	27.7 × 19.8 袋 一冊 写 尊純親王記	27.0 × 19.3 袋 一冊 写 近世中期 扉に「山門雞頭院」(本文とは別筆)	28.6 × 19.9 袋 一冊 写 貞享元年 厳覚 享保八年寛遍本で校正の奥書

202	201	198	197	196	195
青蓮院尊純親王御類聚記録抜粹記	西山宝菩提院系図	青蓮院座主記〔良達〕	緇門崇行録	寺門高僧記	諸門跡譜
	28.5 × 20.3 袋 一冊 写 近世中期	14.0 × 17.9 袋 一冊 写 嘉永五年	26.7 × 16.4 袋 一冊 刊 □文元年 田原仁左衛門	27.7 × 19.9 袋 一冊 写 元禄十三年 松順 卷十のみ	27.6 × 20.2 袋 一冊 写 近世中期

206	忠快律師物語 28.0 × 20.2 袋 一冊 写 宝永四年 嚴覚（前半は覺深）	205	谷阿闍梨伝（大江匡房撰） 23.6 × 16.6 袋 一冊 写 宝永八年 真応 奥書嚴覚	204	越知山泰澄伝 27.6 × 20.0 袋 一冊 写 元禄十三年 嚴覚 内題「泰澄和尚伝記」、元奥書に保元元年信西の本を書写とあり	203	大織冠縁起 28.1 × 19.8 袋 一冊 写 近世中期	27.8 × 19.5 袋 一冊 写 天和三年 覺深 宝永四年丁亥秋月伝領嚴覚	
211	伝信和尚伝 27.7 × 19.8 袋 一冊 写 元禄四年 嚴覚	210	伝教大師略御伝記 25.3 × 17.1 袋 一冊 写 近世中期	209	伝教大師歌伝記 24.9 × 17.4 袋 一冊 写	208	伝教大師書簡 24.2 × 17.2 袋 一冊 写 宝暦七年 嚴覚	207	伝教大師伝記 26.2 × 18.9 袋 一冊 刊 元禄二年版の伝教大師伝、伝教大師伝附録、覺深の識語あり
218	天台大師会辨紀 27.9 × 19.8 袋 一冊 写	216	智証大師伝（清行） 27.5 × 19.8 袋 一冊 写 内題「天台宗延暦寺座主円珍伝」	214	天台座主記 28.3 × 19.8 袋 一冊 写 延宝八年 円朗（嚴覚） 六十二代慈円より七十九代慈源まで十八人、下巻一冊のみ	213	天台座主記 27.2 × 19.6 袋 三冊 写 天保六年 内藤広 奥書に塙保己一の本を謄写とあり	212	天台列祖略伝 25.7 × 18.3 袋 一冊 刊 明治十六年

219	天台大師和讃註 27.0 × 19.2 袋 一冊 写	220	天台大師和讃聞書 13.3 × 19.5 袋 一冊 刊 寛文七年 長谷川市郎兵衛	221	南山和尚伝 27.7 × 19.8 袋 一冊 写 元禄十四年 嚴覚 内題「無動寺開祖相応和尚伝」	222	天台法華宗相承 27.2 × 20.7 袋 一冊 写	223	天台靈応伝 28.1 × 20.0 袋 一冊 写	224	東叡山開山慈眼大師縁起（胤海撰） 28.0 × 19.0 袋 二冊 刊 延宝八年 村上嘉右衛門
外題「慈眼兩大師縁起」											
225	東叡山寛永寺元三大師縁起 26.8 × 19.3 袋 一冊 刊 延宝八年 村上嘉右衛門 外題「慈恵大師縁起」	226	東叡山子院歴代主僧記 23.3 × 16.7 袋 一冊 写 近世中期以後	227	桃源軒隨筆（嚴覚） 23.9 × 16.5 袋 一冊 写 近世中期	228	内証仏法相承血脉譜 28.0 × 20.0 袋 一冊 写 宝永四年 嚴覚	229	南岳天台兩大師略伝 27.4 × 19.6 袋 一冊 写 明治二年 昭海		
230	日光山法脈略記 24.4 × 17.1 袋 一冊 写 江戸中期以後 表紙に「光嶺沙門覚如蔵」の墨書あり	231	日本大師先徳明匠記（定珍） 28.0 × 18.8 袋 一冊 刊 承応二年 徳左衛門	234	秘密慈恵大師略縁起 22.0 × 16.6 袋 一冊 写	236	本願上人遺続集 27.8 × 19.6 袋 一冊 写	237	法家相承次第 23.5 × 17.0 袋 一冊 写 宝永四年 嚴覚	238	紀州由良鷲峯開山法燈円明国師縁起 27.6 × 19.9 袋 一冊 写

- 貞享二年 敵覚
外題「法燈縁起」
- 239 法道和尚行状記拾遺
23.2 × 16.5 袋 一冊 刊
- 240 三井往生伝(昇蓮)
27.4 × 19.4 袋 一冊 写
雞頭院蔵
- 241 横川各院歴代記
27.4 × 19.3 袋 一冊 写
正徳三年頃
- 242 靈空大和上行業記(妙香)
22.3 × 14.7 袋 一冊 刊
明治二十七年 台飯溪大学林
- 244 訓蒙六宗伝通略志
17.6 × 12.5 袋 一冊 写
- 246 経軌伝受目録
-
- 22.7 × 16.5 袋 一冊 写
正徳六年 敵覚
- 247 行林目録
28.0 × 19.7 袋 一冊 写
宝永二年 敵覚
- 248 高山寺聖教目録
26.8 × 19.3 袋 一冊 写
元禄十四年 敵覚
- 249 根本大和尚真跡栄子等目録
23.7 × 16.6 袋 一冊 写
享保十五年 真源
- 250 所授密教儀軌目録
22.9 × 16.4 袋 一冊 写
正徳六年 敵覚
- 251 伝教大師御撰述目録(修禅院和尚)
27.4 × 19.3 袋 一冊 写
江戸中期か 天正十二年写本の写し
-
- 253 東城伝燈目録
23.6 × 16.9 袋 一冊 写
正徳二年 真応・天忠
敵覚の識語「洛北興聖寺本命真応天忠
二人膳写」あり
- 254 扶桑天台宗章疏目録
14.6 × 20.4 袋 一冊 写
延宝八年 敵覚
奥書に「舜澄法印御所持定賢真筆本令
書写之」とあり
- 255 法相宗章疏目録(沙門訓兼)
23.6 × 16.8 袋 一冊 写
享保九年
題箋は「現行拾遺録」内題「補注進法
相宗章疏目録」
- 256 慈密伝受次第
23.4 × 16.2 袋 一冊 写
正徳六年 敵覚

261	一乗止観院供養略式（永正十五年）	257	初例鈔 27.6 × 19.5 袋 一冊 写 寛保元年 良謹 天和三年に厳覚が戒心谷頭寿院本を亮覚に書写させたものの写し（奥書による）
260	愛宕山白雲寺縁起 28.4 × 20.0 袋 一冊 写 貞享三年	258	初例鈔 19.7 × 19.2 袋 一冊 写 天和三年 亮覚 厳覚識語に戒心谷頭寿院幸替所持本を書写させた旨あり
259	愛宕山修造幹縁疏（前南禅景三撰） 23.8 × 16.9 袋 一冊 写 「嵯峨清凉寺修造幹縁疏」を含む	262	一向大乘寺規則 27.2 × 19.6 袋 一冊 写 並 良謹蔵本
265	延暦寺供養 23.3 × 16.7 袋 一冊 写	263	岩辻山縁起 23.5 × 16.6 袋 一冊 写 宝永四年 小笠原源太長春 長春は新羅三郎義光二十二世甲斐源氏、厳覚蔵本
264	朝野群載（第三円宗寺記） 28.0 × 19.7 袋 一冊 写 享和元年 真超の本（寛政十一年）享和元年書写させたもの、良謹蔵	266	寛政二年 「中堂供養」を含む 延暦寺六月会講聴記 28.9 × 19.9 袋 一冊 写 貞享二年 広海 厳覚の識語あり
270	葛川過去帳 23.5 × 16.4 袋 一冊 写 宝永四年 厳覚 以迹門院法印篤運本謄写	267	園城寺事書 26.8 × 20.3 袋 一冊 写 元禄七年 厳覚
268	園城寺伝記 27.5 × 19.4 袋 一冊 写 宝永七年 厳覚 巻八のみ		

276	元応寺年中行事 27.2 × 19.2 袋 一冊 写 享保三年 厳覚	275	鞍馬寺縁起 27.5 × 19.3 袋 一冊 写 元禄二年 厳覚	274	堂供養記 27.8 × 19.5 袋 一冊 写 元禄十四年 厳覚	273	金峯山草創記 27.4 × 19.4 袋 一冊 写 享保元年	272	教信寺縁起 23.5 × 16.6 袋 一冊 写	271	葛川息障明王院記 23.4 × 16.6 袋 一冊 写
-----	--	-----	--	-----	--	-----	--------------------------------------	-----	-----------------------------	-----	--------------------------------

286	山家要略記 28.6 × 20.2 袋 一冊 写 出離生死血脈・諸宗僧官徳記・徳川家 暦代記・輪王寺宮世代記を合綴	285	三院及山王記 14.0 × 20.0 袋 一冊 写 江戸中期頃	284	嵯峨釈尊縁起 22.7 × 16.6 袋 一冊 刊	280	根本中堂正遷座次第記 23.6 × 16.9 袋 一冊 写	279	寛文七丁末年・根本中堂外遷座記 27.9 × 19.9 袋 一冊 写	278	根本中堂記・附議堂録 28.0 × 19.8 袋 一冊 写 天和二年 円雅
-----	--	-----	---------------------------------------	-----	------------------------------	-----	----------------------------------	-----	---------------------------------------	-----	---

292	山門秘書記	291	大講堂供養記 27.6 × 20.0 袋 一冊 写 元禄七年 厳覚	290	大講堂供養 28.0 × 19.9 袋 一冊 写 元禄十二年 厳覚	289	山門事書 27.6 × 20.0 袋 一冊 写 元禄六年 厳覚	288	山門三院記 14.0 × 20.8 袋 一冊 写 天和三年	287	山門雜記 23.4 × 16.8 袋 一冊 写 永正十五年四月四日 根本中堂供養次 第記を合綴
-----	-------	-----	---	-----	---	-----	---------------------------------------	-----	-------------------------------------	-----	--

26.1 × 18.1 袋 一冊 写
天和二年 嚴覚

293 山門無動寺事

23.5 × 17.0 袋 一冊 写
宝永四年 嚴覚

295 寺門金堂弥勒等伝

27.4 × 18.5 袋 一冊 写
宝永七年 嚴覚

296 円教寺新略記

27.9 × 19.6 袋 一冊 写
元禄十五年 嚴覚

297 書写山之記

23.9 × 16.7 袋 一冊 写
延宝八年 快玄
内題「書写山元由并諸堂年中行事記」

298 摂州金龍寺縁起

27.6 × 19.9 袋 一冊 写

元禄十三年 嚴覚

299 摂州本山寺略縁起

27.1 × 18.7 袋 一冊 刊

300 善峯寺縁起

23.3 × 17.1 袋 一冊 写

301 相国寺塔供養記

27.7 × 19.8 一冊 写
元禄十四年 嚴覚

302 大安寺住侶記

27.6 × 18.8 袋 一冊 写
元禄四年 覚深

303 太閤大仏殿因縁

23.4 × 16.5 袋 一冊 写

304 醍醐山略記

27.4 × 19.4 袋 一冊 写

乳野安養院御廟縁起〔尊海撰〕

23.2 × 16.6 袋 一冊 写
元禄十二年 嚴覚

307 梵鐘道成寺靈蹤記

25.7 × 18.4 袋 六冊 刊

寛延三年 江戸・梅村 大阪・大野木
京都・田中の各書肆

308 多武峯略記〔静胤撰〕

28.1 × 19.8 袋 二冊 写
元禄十一年 嚴覚
建久八年檢校静胤記

309 登山次第

27.5 × 19.4 袋 一冊 写
万治元年 舜興

310 応安年中南禅寺破却衆議事書

27.6 × 20.0 袋 一冊 写
元禄六年 嚴覚

嚴覚の識語、慶安三年八月日観音寺舜

興蔵		311	南都名所記 22.5 × 15.9 袋 一冊 刊 万延二年 絵図屋庄八 伽藍本尊靈宝目録(刊本・二冊)、二月 堂縁起(刊本)を合冊
312	南都薬師寺修補募縁疏 27.4 × 20.4 袋 一冊 写 享保十六年	313	南蛮寺興廃記 25.6 × 17.9 袋 一冊 刊 生金印伝(刊本)を合冊 「須磨浦古跡記」(刊本)「焰魔大王蘇
314	二尊院縁起 27.4 × 19.5 袋 一冊 写 江戸中期 雞頭院の朱印あり	315	日光縁起 27.2 × 19.1 袋 二冊 写 江戸中期か 内題「当山日光満願寺建立目録」、「日 光山滝尾建立草創日記」と合本
316	日光山修善雜記 29.2 × 20.9 袋 一冊 写 貞享五年 寛深 卷下のみ、寛永五年厳覚伝領の識語	317	日光山地誌 23.8 × 17.2 袋 一冊 写 寛永二年 厳覚 江府鈴木秋峯撰 <small>号長兵衛</small>
318	慈鎮和尚長谷寺回祿記 27.7 × 19.4 袋 一冊 写 寛深 内題「長谷寺焼失」	319	播州太山寺(大塔宮令旨北条尊氏制札)
320	御山の志をり「荷香庵主人」 21.4 × 14.7 袋 二冊 写 天保三年 鴻麟堂岩垣伝左衛門 上は「比叡山延暦寺小案内記」下は「比 叡山坂本山王社小案内記」	321	御山の志をり 320と同じ
322	毘沙門堂記 27.3 × 19.8 袋 一冊 写 元禄十一年 寛深 六卷合一冊、とびらに「伝領大僧都厳 覚」とあり	323	豊前国護国寺縁起(恵観) 28.0 × 19.5 袋 一冊 写 内題は「求菩提山縁起寛書」

- 324 洛陽法勝寺元応寺付台麓西教寺来迎寺由来
之記
28.2 × 19.8 袋 一冊 写
雞頭院本覚蔵
- 325 本願縁起〔上宮太子撰〕
27.3 × 19.2 袋 一冊 写
享保三年 貞晟梵照
上宮太子御作本願縁起四天王寺、嚴覚
の識語あり
- 326 摩耶山縁起
23.7 × 15.8 袋 一冊 写
宝永八年 智譚
内題〔摂脇仏母摩耶山仍利天上寺縁起〕
- 327 比叡山坂本来迎寺靈宝目録略縁起
24.0 × 17.0 一冊 刊
靈宝略縁起〔刊本〕六道絵相略縁起〔刊
本〕を合冊
- 328 横川中堂略縁起〔覚深〕
-
- 329 横川中堂御修理記〔恵覚〕
23.7 × 16.8 袋 一冊 写
貞享五年
内題〔棧嚴院中堂御修理記〕
雞頭院本覚蔵の墨印あり
- 330 官職弁覧僧綱
27.0 × 19.3 袋 一冊 写
宝永五年嚴覚の識語あり
- 331 三国僧位要記略
23.6 × 17.1 袋 一冊 写
宝永四年 嚴覚
- 332 僧官条目
27.4 × 19.2 袋 一冊 写
貞享三年 嚴覚
-
- 333 僧官条目興福寺僧徒先途次第
23.6 × 17.0 袋 一冊 写
寛保元年 良謹
- 334 僧官位
27.6 × 19.2 袋 一冊 写
天明二年 良謹
- 335 朝野群載
29.4 × 19.5 袋 一冊 写
享和元年 永田内蔵
第十七のみ
- 336 安鎮私用記
23.5 × 16.5 袋 三冊 写
宝永六年 嚴覚
- 337 一条院後一条院記日本記略
28.1 × 20.0 袋 一冊 写
- 338 京將軍家代々追福記
23.7 × 16.6 袋 一冊 写

宝永七年 厳覚

339 延徳二年 禁中御八講記

28.6 × 19.9 袋 一冊 写
貞享三年 厳覚

340 御八講御次第 貞享三

27.4 × 19.7 袋 一冊 写
貞享三年 寛深

341 禁中御八講略記 貞享三年

28.1 × 19.9 袋 一冊 写
貞享三年 寛深
本奥書か

342 禁中御懺法講記

28.0 × 19.9 袋 一冊 写
宝永元年 厳覚

343 禁裏御懺法講記

26.7 × 19.2 袋 一冊 写
天和二年 幸雄

344 禁中御懺法勸例

27.3 × 19.2 袋 一冊 写
享保三年 厳覚

345 雲井御法(康暦二年後光厳院の御七回忌)

(二条良基)

28.4 × 19.8 袋 一冊 写
貞享三年 厳覚
内題 御懺法講紀

346 後光明院後中陰記 承応三年

28.0 × 19.7 袋 一冊 写
元禄十年 厳覚

347 建武元年御修法記

27.7 × 19.7 袋 一冊 写
宝永七年 厳覚

348 禁中御懺法講記

27.4 × 19.6 袋 一冊 写
貞享三年 寛深

349 御懺法講次第

27.0 × 19.0 袋 一冊 写
享保十二年 義麟

350 建聖記

29.0 × 20.2 袋 一冊 写
貞享三年 厳覚
内題「文安二年十月御懺法講記
亦曰万理小路記
一名建聖記」

351 東福門院七回忌御懺法講記

27.9 × 19.8 袋 一冊 写
貞享四年 恵覚

352 文龜二年御懺法記

28.8 × 19.9 袋 一冊 写
貞享四年 厳覚

353 文明八年漁山御法(堯胤親王)

28.8 × 20.0 袋 一冊 写
貞享四年 厳覚

354 貞享三年御八講記

23.6 × 16.9 袋 一冊 写

355 御光明院三十三回忌御八講記

28.0 × 20.0 袋 一冊 写

356 御八講記 万治三年九月

27.9 × 20.2 袋 一冊 写

357 御八講御次第 大行道次第

27.9 × 19.8 袋 一冊 写

宝永五年 信応・厳覚

358 応永十二年宸筆御八講次第

28.4 × 19.9 袋 一冊 写

貞享元年 厳覚

359 日光山御八講記

23.6 × 17.2 袋 一冊 写

宝永二年 厳覚

内題「東照宮三十三回忌慶安元年日光

御八講記」

360 後水尾院御中陰記録

28.0 × 19.7 袋 一冊 写

元禄十年 松順

361 出家記

27.7 × 19.9 袋 一冊 写

正徳元年 厳覚

362 最勝寺結縁灌頂日記

27.2 × 19.6 袋 一冊 写

享保二年 慈泉

363 座主拝堂拝賀次第記

23.3 × 16.2 袋 一冊 写

江戸中期

364 小夜千鳥〔寛深〕

27.5 × 19.5 袋 一冊 写

元禄八年 寛深

朱注記、久遠寿院准后御葬礼之記

365 敷政門院経供養記〔実助〕

28.4 × 19.9 袋 一冊 写

貞享二年 厳覚

外題「文安経供養記」

366 受戒作法剃髪作法中有目錄

23.5 × 16.9 袋 一冊 写

文久二年 亮通

「開山大師度牒戒牒」、「大宮院御出家次第」、「出家受戒作法」、「尊証親王御得度次第」等を含む。

367 樹下乃御法 延宝五年新礼拝記

28.0 × 19.5 袋 一冊 写

雞頭院本寛蔵

368 浅学教導集〔光憲〕

25.7 × 18.8 袋 四冊 刊

万治二年版か

全十一卷

374	如法經記 応安六年 28.0 × 19.8 袋 一冊 写 宝永二年 厳覚	373	宝菩提院祖師法印御仏事 27.9 × 19.3 袋 一冊 写 元禄十一年 厳覚書写させる	372	東福門院御十三忌御懺法講記 元禄三年 23.6 × 16.8 袋 一冊 写	371	内裏安鎮手文寛政二年 21.0 × 13.3 袋 一冊 写	370	仙洞御懺法講記 魚山宝泉房記 27.5 × 19.6 袋 一冊 写 貞享三年 寛深	369	仙洞御所安鎮次第 21.1 × 13.7 袋 一冊 写 明和七年 良謙
379	如法經雜記 28.4 × 19.9 袋 一冊 写 貞享三年 厳覚	378	如法經雜事 28.4 × 20.0 袋 一冊 写 貞享元年	377	泉涌寺如法經故実 27.9 × 19.8 袋 一冊 写 貞享元年 厳覚	376	如法經現修作法 28.6 × 20.0 袋 一冊 写 貞享元年 要存	375	如法經現修作法 28.5 × 19.9 袋 一冊 写 貞享元年 厳覚	内題「門葉記」	
385	明王院尊儀御中陰略記 23.5 × 16.6 袋 一冊 写	384	明王院尊儀御経供養 23.8 × 15.7 袋 一冊 写	383	仁王経法雜集 23.4 × 16.6 袋 一冊 写	382	仁王会作法 23.6 × 16.3 袋 一冊 写 宝永六年 厳覚	381	如法経門葉記 28.3 × 20.0 袋 三冊 写 貞享元年 厳覚 古今著聞集卷一引用	380	如法経手記 28.4 × 20.0 袋 一冊 写 貞享二年 厳覚

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|----------------------------------|-----|--|-----|--|-----|---|-----|---|-----|------------------------------|
| 393 | 字母表 | 391 | 念珠略詮
26.0 × 17.5 袋 一冊 刊
天保十五年 京都・尚書堂堺屋仁兵衛 | 390 | 素絹並頭密之由来
14.0 × 20.4 袋 一冊 写
文化十年 豪観 | 388 | 衣鉢名義章〔允堪〕
26.0 × 18.0 袋 一冊 刊
元禄十二年 千種市兵衛 | 386 | よろつの御法
28.5 × 20.0 袋 一冊 写
貞享三年 厳覚 | | |
| | | 397 | 字母表開秘録
23.8 × 16.7 袋 一冊 写
享保六年 義寛 | 396 | 校正悉曇字記
26.4 × 19.0 袋 一冊 刊
台宗書林 柳枝軒小川多左衛門 | 395 | 悉曇字記〔知広〕
25.5 × 18.2 袋 一冊 刊
寛文九年
書込多し、「北嶺沙門釈最天」の文字あり | 394 | 五字功能
23.0 × 16.3 袋 一冊 写
享保四年 厳覚 | | |
| 403 | 悉曇摩多体文
ト吉ナウニ冊ジャナヤ智シタン成就
祥命 | 402 | 悉曇摩多体文
26.9 × 7.4 折 一帖 刊
天明八年 鈴木伊兵衛
元刊記、元禄七年、題名「ミツチ成アラソ | 401 | 悉曇稿
24.3 × 16.8 袋 一冊 写
明治初期か | 400 | 悉曇大底
29.1 × 19.4 袋 一冊 写
享保二年 厳覚 | 399 | 悉曇十二例
27.3 × 19.5 袋 一冊 写
享保二年 厳覚 | 398 | 悉曇十二重訣
26.4 × 18.4 袋 一冊 刊 |

- 407 分別六合釈〔法住〕
- 404 悉曇要集記〔觀智律師述〕
 26.9 × 7.4 折一帖 刊
 題名402に同じ、刊記なし、嘉永四年大僧都光親のメモあり
- 27.9 × 19.6 袋一冊 写
 貞享乙丑四月、嚴覚の識語「承保乙卯庚午於金剛峯寺聖跡記之」〔表紙ウラ〕とあり
- 405 声明雜記〔苾芻〕
 24.0 × 17.0 袋 写
 文久二年 亮海
 文久二年書写延曆寺真言末流亮海記之
- 406 難字記
 26.4 × 19.4 袋 四冊 刊
 承応二年 林和泉
 外題は「三大部音儀」、刊記題「天台六拾卷音義」

- 412 梵書〔法帖〕
- 408 梵語雜名
 26.5 × 18.4 袋一冊 刊
 寛政九年 敦賀屋九兵衛
 根来寺大伝法院蔵版
- 27.0 × 19.0 袋一冊 写
 元奥書保安二年大原勝林院草庵書写了蓮昇、享保二年に天忠に書写させた旨の嚴覚の識語あり
- 409 梵字形音義〔明覚〕
 26.7 × 19.3 袋一冊 写
 宝曆十二年苾芻の識語あり
- 410 梵字習字帳
 39.5 × 27.5 仮五冊 写
- 411 梵書種字集
 27.1 × 17.5 袋一冊 刊
 寛文十年 沙門澄禪

- 413 梵書〔法帖〕
 24.9 × 17.2 仮一冊 写
 大行満願海
- 27.5 × 20.0 仮一冊 写
 織山觀音正寺徳性所持
- 414 摩多体文
 45.5 × 16.3 他一枚 写
 包紙一枚〔包紙に書名〕
- 415 無量壽儀軌中梵唐対註真言
 27.6 × 19.5 袋一冊 写
 享保二年 嚴覚
 以下を合写
 無量壽儀軌中梵唐対註真言 五大院
 十二真言王儀軌
 弥陀念誦略私記 谷
 釈迦牟尼仏成道在菩提樹降魔讃
 明仏法根本碑 智慧輪
 不動七支念誦
 囉誠私記 谷

多聞天法
受地作法 大原

416 六合釈〔慈恩大師撰〕

15.9 × 11.8 袋 一冊 写
燧土成詮

418 各宗教要随問〔玉樹遊楽〕

22.4 × 15.3 袋 一冊 刊
明治十三年 玉樹百枝

419 諸宗説教要義

22.3 × 15.9 仮 一冊 刊
明治五年 教典局

421 開眼供養供徳・孝養父母供徳〔合冊〕

23.8 × 17.0 袋 一冊 写
江戸中期か

423 頭宛誓伝

26.1 × 18.1 袋 一冊 刊
明治十七年 京都・藤井佐兵衛

原版は寛文十一年

424 阿弥陀経依正譚〔釈惠階謹序〕

25.7 × 18.0 袋 三冊 刊
明和九年 河南四郎右衛門

425 仏説阿弥陀経要解

27.0 × 18.4 袋 一冊 刊
元文元年 大里屋莊兵衛
外題は「浄土十要 第一弥陀要解」

426 梵文阿弥陀経

16.0 × 9.4 折 一帖 刊
明治 爪雪處蔵 製本所美濃国大垣岐阜町岡安書房

427 飲補要解記〔真性（慈鎮）撰写本〕

26.9 × 18.6 袋 四冊 写

429 観世音菩薩普門品義疏記会本

26.0 × 18.2 袋 四冊 刊
柳枝軒小川多左衛門

430 観世音菩薩普門品玄義記会本〔菩提菴聖行

述〕

26.0 × 18.0 袋 四冊 刊

431 観世音普門品影響鈔

25.7 × 18.3 袋 五冊 写
元禄五年 小佐治半右衛門他
第二―第六まで、第一は欠

432 観音玄義記講義〔慈澄和尚〕

25.8 × 17.9 袋 三冊 刊
万延二年 和泉屋庄治郎（江戸）

433 観音玄義記条箇

25.8 × 18.2 袋 一冊 刊
外題〔箋〕は「観音玄疏記古本条箇」

434 観音玄疏記会本科文

25.8 × 18.1 袋 一冊 刊

435 観音経

- 441 金光明經
- 440 觀經疏講述
× 袋 一冊 写
大正九年 辻井徳順
洞津龍宝山主辻井徳順写之(徳順師が大峯山金峯山寺の對紙に善導の觀經疏の注釈を書写したもの)
- 439 仏説觀無量壽仏經疏玄少宗鈔会本
26.7 × 18.5 袋 五冊 刊
元禄三年 風月清左衛門
実觀序文、外題(箋)は「觀經疏妙宗鈔会本」
- 438 別行疏記講録(一名觀音疏記)〔亮潤〕
26.3 × 17.8 袋 二冊 刊
享保十年
説經資料か、仮綴
23.5 × 17.2 仮 一冊 写
江戸中期以降か
-
- 447 三劫三千仏名經
25.1 × 19.4 仮 三冊 写
- 445 金光明經文句記会本
26.2 × 18.7 袋 八冊 刊
天保三年 小川多左衛門
柱題「金光明文句記会本」
- 444 金光明經玄義拾遺記会本
26.1 × 18.5 袋 三冊 刊
天保三年
- 443 金光明經玄義文句料
27.0 × 18.5 袋 一冊 刊
内題は「金光明經玄義」
- 442 訓点校正金光明經
26.1 × 18.7 袋 二冊 刊
明治二十四年 山田常蔵
25.8 × 18.2 袋 一冊 刊
寛文十一年
-
- 451 仁王護国般若波羅蜜經
26.2 × 18.0 袋 一冊 刊
上―延宝四年、下―寛文十二年 黄檗
山宝蔵院沙門鉄眼募刻
- 450 尊勝陀羅尼梵唐対注
28.1 × 19.5 袋 一冊 写
江戸末
元文四己未年正月十四日書写之良謀蔵
- 449 心地觀經報恩品
22.3 × 15.3 袋 一冊 刊
明治十七年 明道教会蔵版
「鳥尾小弥太訓点」
- 448 三經解
25.7 × 18.2 袋 一冊 刊
寛政七年 皇都書林・八幡屋徳兵衛、桶屋儀兵衛、柏屋喜兵衛
宝曆八年 得忍智恭
表紙に「過去莊嚴劫千仏名經」

454 般若心經疏

25.0 × 17.3 袋 和 一冊 写

「天台沙門慈室所藏」

455 般若心經注解〔虛応円耳〕

26.0 × 18.9 袋 一冊 刊

「維時慶長^{丙午}林鐘七日於興聖寺円耳謹記」の跋あり

456 般若心經鈔〔一休和尚抄〕

24.9 × 16.3 袋 一冊 写

江戸末

457 般若心經梵本校註

27.1 × 19.0 袋 一冊 写

元文二「沙門慈棹敬記」の序あり

458 般若心經融談私記

27.8 × 19.5 袋 一冊 写

江戸中期か

459 般若心經法則之内御尋答書

18.4 × 12.0 袋 一冊 写

天明五年 亮雄

460 唐梵対訳翻字音般若波羅蜜多心經記

26.2 × 18.9 袋 一冊 写

江戸後期か

461 梵唐対訳摩訶般若波羅蜜多心經

27.4 × 19.4 袋 一冊 写

享保十四年 真源

享保十六年校 慈瑗

462 般若心經決談鈔〔大覚主人〕

25.4 × 17.5 袋 一冊 刊

明和二年 藤屋弥兵衛（大坂）他

463 般若波羅蜜多心經註解

26.9 × 19.1 袋 一冊 刊

正保三年 杵田勘兵衛

464 心經直談

26.8 × 17.1 袋 一冊 刊

万治三年

「寛文八年亮海求之」のメモあり

465 仏説四十二章經

26.5 × 18.5 袋 一冊 刊

扉題は「仏祖三經」、「山門常樂院亮海蔵」の朱印あり

466 仏母大孔雀明王經

25.6 × 17.8 袋 一冊 刊

江戸後期か 版元不明

内題「読誦仏母大孔雀明經前啓請法」

織山観音正寺書院辻井徳順護持の書入

あり

467 仏母大孔雀明王經

26.3 × 18.0 袋 一冊 刊

刊記なし

内題 読誦仏母大孔雀明經前啓請法

472	法華玄義釈籤傍註〔慧澄口授受業普潤録〕 26.0 × 18.4 袋 二十冊 刊 明治三十二、三十五年 貝葉書院	471	法華玄義釈籤講義〔慧澄和尚著〕 26.4 × 19.0 袋 十冊 刊 嘉永二年 東叡山蔵版 御製本所 台宗書林 寺前和泉屋庄次郎	470	法華玄義釈籤会本 29.5 × 20.5 袋 二十冊 刊 書入れ多し、識語真覺 叙文智海	469	普賢延命金剛最勝陀羅尼經 26.5 × 16.0 袋 一冊 写 江戸中期	468	普賢行願讃梵本 23.7 × 16.5 袋 一冊 写 近世末期か 「大孔雀明王画像壇場儀軌」を合冊
478	妙法蓮華經台宗会義講録〔苾芻光謙〕 29.5 × 18.4 袋 一冊 刊	477	妙法蓮華經 25.8 × 18.4 袋 二冊 刊 寛文三年 沙門鐵眼刻	476	妙法蓮華經 26.2 × 18.6 袋 三冊 刊 寛文三年 沙門鐵眼刻	475	校 ^訓 正 ^點 妙法蓮華經〔校 ^訓 正 ^點 赤松光映〕 26.3 × 18.7 袋 四冊 刊 明治二十四年 山田常蔵〔山田保延堂〕	473	法華繪貫講要 25.8 × 18.0 袋 一冊 刊 慶応三年版の明治刷？ 山門善住院蔵版 慶応三年丁卯八月刻成 御製本所 台宗書林 森江英二
483	維摩經義疏	482	藥師儀軌 27.3 × 19.7 袋 一冊 写 宝永七年 嚴寛	481	文殊師利菩薩六字咒功能法經 23.5 × 16.4 袋 一冊 写 享保五年 嚴寛 外題・六字文殊儀軌	480	妙法蓮華三昧秘密三摩耶經 26.8 × 20.1 袋 一冊 写 明治二十六年 徳順 外題・蓮華三昧經	479	妙法蓮華經文句記 29.7 × 20.6 袋 三十冊 刊 陋巷居士顔元瞻 外題「法華文句記会本」

- 489 菩薩戒經会疏山家釈
26.3 × 18.8 袋 八冊 刊
- 488 菩薩戒經義疏講義
26.1 × 18.1 袋 二冊 刊
文久三年 台宗書林 和泉屋庄次郎
- 487 冠註 傍解 菩薩戒經義疏校本
25.7 × 17.9 袋 二冊 刊
明治二十一年 出雲寺英太郎
- 486 菩薩戒經義疏会本
25.7 × 18.4 袋 二冊 刊
元禄三年 京都書林 永田調兵衛
- 485 与願金剛地藏菩薩秘記
27.0 × 18.4 袋 一冊 写
昭和四年 辻井徳順
外題・地藏菩薩秘記
- 26.6 × 18.6 袋 五冊 刊
明治十三年 島田蕃根

- 494 大乘起信論別記
27.6 × 17.5 袋 一冊 刊
正保四年 西田庄兵衛
- 493 大乘起信論疏
27.5 × 19.4 袋 四冊 写
延宝四年 堀井伝右衛門
- 492 成唯識論
26.2 × 18.6 袋 十冊 刊
元禄十六年 河内屋喜兵衛
- 491 菩薩戒疏聴書
24.1 × 16.7 袋 一冊 写
明治十八年 徳順
- 490 菩薩戒疏講述
26.4 × 18.3 袋 二冊 写
明治二十二年 徳順
- 享和二年 貝葉書院
外題・菩薩戒疏山家釈

- 499 火鉢供養儀軌
27.4 × 19.3 袋 一冊 写
享保三年 恵脈
- 498 火鉢供養儀軌
24.1 × 15.8 袋 一冊 写
享保三年 恵脈
- 497 礼空抄
28.1 × 20.2 袋 一冊 写
宝永四年 厳覚
- 496 立世阿毘曇論
25.4 × 17.5 袋 一冊 刊
慶応二年 皇都書林 丁子屋九郎右衛門
外題 立世阿毘曇論日月行品
- 495 起信論疏筆削記
28.0 × 19.7 袋 六冊 刊
延宝五年 村上平樂寺

39

26.8 × 18.8 袋 一冊 刊
安政二年 台宗書林 和泉屋庄次郎
外題 聖歡喜天叢書

515 常瞿利毒女陀羅尼經

27.4 × 19.4 袋 一冊 写
享保二年 嚴覺

「聖牢地天儀軌」を合冊

516 成就瑜伽觀智十二聖天儀軌

23.3 × 16.7 袋 一冊 写

宝永五年 嚴覺

外題 成就瑜伽十二聖天儀軌

517 千手觀音造次第法儀軌

23.5 × 16.4 袋 一冊 写

享保五年 嚴覺

外題・廿八部衆造次第儀軌

518 總釈陀羅尼義讃

27.4 × 19.4 袋 一冊 写

享保二年 嚴覺

519 尊勝仏頂修瑜伽法儀軌

27.3 × 19.2 袋 一冊 写

享保元年 恵脈

520 尊勝仏頂言修瑜伽法

27.4 × 19.4 袋 一冊 写

享保七年 恵脈

521 新集浴像儀軌

27.4 × 19.5 袋 一冊 写

延宝二年? 嚴覺

522 大日經義釈序偕誘鈔

24.2 × 17.1 袋 一冊 写

523 大日經疏抄

27.5 × 19.3 袋 一冊 写
嚴覺か

524 大日經疏奥卷問書爛脱

23.6 × 17.0 袋 一冊 写

正徳三年 天忠

外題 大日經疏爛脱抄

525 大毘盧遮那經阿闍梨真実智品中阿闍梨住阿

字觀門

23.6 × 16.9 袋 一冊 写

正徳四年 智權

外題 卍字觀門

526 大毘盧遮那仏眼修行儀軌

27.4 × 19.4 袋 一冊 写

享保二年 嚴覺

外題 仏眼修行儀軌

527 仏説大輪金剛惣持陀羅尼印法

26.2 × 18.2 袋 一冊 写

外題 惣持陀羅尼印法 宝暦六年の加

注あり

528 底哩三昧耶不動尊聖者念誦秘密法

27.4 × 19.4 袋 一冊 写

延宝二年 浄嚴

529 都表如意摩尼転輪聖王次第念誦秘密最要略 法	外題 底哩三昧耶法
27.5 × 19.4 袋 一冊 写 享保二年 嚴覚	外題 都表如意輪軌
530 念誦結護法普通諸部 23.5 × 16.4 袋 一冊 写 延宝二年 浄嚴	
531 念誦結護法普通諸部 23.8 × 16.8 袋 一冊 写 宝永五年 嚴覚	外題 念誦結護法
532 般若守護十六善神王形体 23.4 × 16.7 袋 一冊 写 宝永七年 善啓	外題 般若十六善神形体
533 毘沙門儀軌 26.0 × 17.8 袋 一冊 写 寛政六年	
534 毘盧遮那別行經 27.6 × 19.4 袋 一冊 写 宝曆八年 良謹	
535 仏頂尊勝陀羅尼 26.4 × 19.5 袋 一冊 写	
536 北斗七星念誦儀軌 27.4 × 19.7 袋 一冊 写 宝永七年 信敬 「北斗七星護摩秘要儀軌」「宿曜儀軌」と合本	
537 無垢浄光陀羅尼 27.1 × 19.1 袋 一冊 写 元禄十二年 嚴覚	
538 文殊師利菩薩六字咒功能法	
539 瑜祇經印明秘決 28.1 × 19.5 袋 一冊 写 享保四年 嚴覚	外題 文殊六字咒功能法 宝永六年 嚴覚
540 円頓章 24.7 × 16.9 袋 一冊 写	
541 円頓章講義 25.8 × 18.2 袋 一冊 刊 文久二年 台宗書林 和泉屋庄次郎	
542 円頓章録初問答記〔觀照〕 20.4 × 13.2 袋 一冊 写	
543 円頓者式部 29.0 × 20.2 袋 一冊 写 享保九年 祐海	

550	金玉集 止観所詮深秘〔存海〕								
549	止観見聞雙紙 25.4 × 16.8 袋 一冊 写 外題 止観見聞書								
548	止観大意講要 26.3 × 17.7 袋 一冊 刊 文久二年 和泉屋庄次郎								
547	止観大意 26.8 × 18.6 袋 一冊 刊 享保四年 稽古堂佐野伊兵衛								
546	止観勘文 13.8 × 20.3 袋 一冊 刊 円頓者秘事と合綴								
545	教観綱宗釈義会本 26.2 × 18.3 袋 一冊 刊 天保四年 台宗書林 和泉屋庄次郎 外題 教観綱宗会本								
555	修習止観坐禪法要								
554	修習止観坐禪法要 21.8 × 15.1 袋 一冊 刊 村上勘兵衛 外題〔箋〕は「修習止観禪要」、朱書入 れ多し								
553	始終心要大義 26.7 × 16.6 袋 一冊 刊 貞享三年 高嶋屋十右衛門 「三千有門頌大義」と合本								
552	始終心要略談 22.9 × 17.1 袋 一冊 写								
551	始終心要 23.9 × 16.7 袋 一冊 写 明治十六年 徳順								
									14.6 × 20.1 袋 一冊 写 中世末か
560	十不二門文理 26.8 × 18.1 袋 一冊 刊 明和元年〔叙文〕								
558	十不二門指要鈔講義〔慧澄〔沙門癡空〕〕 26.4 × 19.0 袋 二冊 刊 嘉永二年 和泉屋庄次郎 東叡山勧学講院蔵版								
557	十不二門指要鈔会本 27.5 × 20.0 袋 二冊 写 朱書入れ多し								
556	十不二門指要鈔会本 25.5 × 18.0 袋 二冊 刊 明治十九年 森江擁万閣・出雲寺松栢 堂 合梓								
									22.1 × 14.9 袋 一冊 刊 明治十年 矢野平兵衛 外題〔箋〕は「天台小止観校本」

- 562 隨自意三昧〔南岳大師撰〕
26.9 × 17.3 袋 一冊 刊
元祿七年 千種市兵衛
- 563 新版
點付天台四教義
25.7 × 18.3 袋 一冊 刊
延宝四年 皇都書肆栗山弥兵衛梓行
〔文昌堂藏版目録〕付載
- 564 天台四教義
25.6 × 17.9 袋 一冊 刊
明治十五年 森江佐七
〔東叡山原版〕
- 565 新版
點付天台四教義
26.4 × 18.5 袋 一冊 刊
延宝四年 皇都書肆栗山弥兵衛梓行
〔著屋宗八版〕の目録付載
- 566 天台四教義
18.7 × 12.9 袋 一冊 刊
明治九年 慶元堂
- 567 冠
傍訓天台四教義
26.2 × 15.5 袋 一冊 刊
明治廿一年 同盟書屋
義水智泉口述 森井國雄編輯
- 568 天台四教儀科文〔蒙潤〔南天竺〕〕
25.8 × 18.0 袋 一冊 刊
外題〔箋〕〔支那
撰述〕四教儀集註科文〕
- 569 天台四教儀冠註〔玉樹遊樂〕
26.3 × 18.8 袋 二冊 刊
明治十六年 玉樹百枝
- 570 天台四教儀集註〔元玉岡蒙潤法師〕
25.7 × 18.9 袋 三冊 刊
安政三年
- 571 天台四教儀集註
25.7 × 18.9 袋 三冊 刊
安政三年
- 572 天台四教儀集註
25.7 × 18.9 袋 一冊 刊
嘉永三年
- 573 四教儀集註匡謬〔慧澄和尚〕
26.5 × 17.4 袋 一冊 刊
須原屋茂兵衛
東叡山浄名院藏版 苾芻癡空の跡文あり
- 574 四教儀半字談〔慧澄和尚〕
25.8 × 18.2 袋 五冊 刊
明治二十二年 仏学書院
外題〔箋〕及び扉題「天台四教儀半字談」
- 575 四教儀集註半字談
25.8 × 18.2 袋 五冊 刊
明治二十二年 仏学書院
- 576 百
題四教儀集註要論鈔〔恵澄〕

22.5 × 15.3 袋 二冊 刊
明治十九年 沢田文栄堂

577 百題四教儀集註要論鈔

22.5 × 15.3 袋 二冊
明治十九年 沢田文栄堂

578 天台四教儀山簀(苾芻癡空(恵澄))

25.8 × 18.2 袋 三冊 刊
嘉永元年 和泉屋庄次郎

579 天台智者大師禪門口訣

25.8 × 17.8 袋 一冊 写
明治十七年 徳順

維時明治十有七琅瑯歲盛夏於湖西台嶽
第壹号中學林恵日精舍謹寫之華台葉字
兒桑門徳順

580 天台伝仏心印記(附・浄土境観要門・一心三観)

26.3 × 16.2 袋 一冊 刊
延宝九年 長谷川市郎兵衛

「江州織山観音正寺」の墨書(裏表紙)

581 天台沸心印記註釋 附・境観要門(慈山)

24.8 × 18.3 袋 一冊 刊
元禄三年 艸深伊兵衛

「守俊蔵本」の朱印あり

582 天台伝仏心印記箋要(苾芻光謙)

27.3 × 17.7 袋 一冊 刊
享保十六年 長谷川市郎兵衛 野田弥兵衛

583 天台八教大意

26.2 × 16.7 袋 一冊 刊
延宝三年 浅野又兵衛

外題箋「支那八教大意
撰述禪門口決南岳願文」

「天台智者大師禪門口決」を合刻

584 法界次第初門(智者大師)

26.9 × 18.3 袋 三冊 刊
天和二年 書きこみ多し

585 法界次第初門(智者大師)

25.0 × 17.0 袋 三冊 写 刊

内下巻寫本—明治十五年 下巻 於湖
西台麓第壹號中學林恵日院南室閑窓下
謹書写之湖東織山沙門金剛佛子徳順

586 止観輔行伝弘決

29.7 × 20.5 袋 四十冊 刊
外題箋は「摩訶止観輔行會本」
一乗 亮海朱印

587 浄心誠観法

27.3 × 18.7 袋 一冊 刊
下巻のみ 「滝本」の朱印

588 相宗八要直解

26.9 × 19.3 袋 四冊 刊
延宝九年 浅野久兵衛

589 冠華嚴原人論(町元呑空編)

22.3 × 15.4 袋 一冊 刊

明治二十年 永田長左衛門

590 原人論

23.9 × 16.5 袋 一冊 写

明治十八年 徳順

於江西台岳大学林南寮一乗沙門徳順

592 原人論講話教案

23.5 × 16.0 一冊 写

昭和三年六月

大峯山金峰山寺の野紙に書いたもの、

徳順のものか

593 浄土十疑論(附・幽溪無盡大師浄土法語(正

知較)

26.0 × 19.1 袋 一冊 写

明治二十年頃 徳順

比叡山大学林本賞生一乗菩薩比丘徳順

謹書写之

594 浄土十疑論鼓吹

25.5 × 17.9 袋 一冊 刊

十巻の内一冊のみ

595 少室六門

25.8 × 15.0 袋 一冊 刊

正保四年 書林左太郎

西来 伊勢國 西来寺 朱印

596 阿抄義科(阿彌陀坊闇梨記)

27.5 × 19.5 袋 十九冊 写

正徳二年 厳覚

欠有 三周義私抄(内題) 阿抄三周

義

597 安鎮記

23.8 × 17.2 袋 一冊 写

厳覚

宝永五年親王新殿安鎮記、同六年仙洞

御所鎮記、同院御鎮記、同禁裏鎮記

598 安鎮記

24.0 × 17.1 袋 一冊 写

明和四年 良謹

内題は「安鎮私用記」 597の書写部分

を含む 雞頭院本

599 題百異義集

26.5 × 19.3 袋 一冊 写

江戸後期か

600 一向大乘寺興隆篇目録

27.5 × 20.0 袋 一冊 写

元禄八年 松順

厳覚の識語

601 一向大乘寺興隆篇目集

26.6 × 19.4 袋 一冊 写

寛永九年

600の元本か

602 一乗戒壇院記

23.7 × 16.7 袋 一冊 写

元禄十年 河中氏

厳覚が河中氏に書写させた旨の識語あり

604

圓頓戒儀秘聞書

24.2 × 16.6 袋 一冊 写

昭和八年 小泉秀淳

天和四年書写の本を入手、元本を西来寺に納入し、書写したものを辻井氏に要覧する旨のメモ書あり

605

圓頓戒口訳集

24.1 × 17.0 袋 一冊 写

昭和十一年 徳順

607

(圓頓菩薩戒儀)

24.4 × 17.0 仮 一冊 写

明治四十五年 徳順

徳順師の草稿

608

圓頓菩薩戒儀

28.0 × 20.2 仮 一冊 写

明治末年か 辻井徳順

洞津龍宝山主天台沙門辻井徳順

609

圓頓菩薩戒儀

28.0 × 20.2 仮 一冊 写

昭和三年 辻井徳順

「昭和三年二月仏涅槃日於湖東繼龍教林精舎一乗菩薩比丘徳順薫沐謹写」あり

610

圓頓行事綱宗

23.8 × 16.7 仮 一冊 写

大正元年 辻井徳順

維時大正元年季秋下浣於勢陽洞津龍宝山西來待寺方丈憑前住小泉僧正秘藏本謹写之畢一來菩薩比丘真澄徳順

611

圓戒琢磨決

25.3 × 16.9 袋 二冊 刊

常照院内哲全持具

612

戒灌伝授次第

23.9 × 17.0 袋 一冊 写

昭和十一年 辻井徳順

昭和十一年於湖東蒲生郡北比都佐村字

小谷圓林精舎

613

西山灌頂壇図様

23.4 × 16.5 袋 一冊 写

宝暦十二年 真源

元興書天文六年八月中納言

615

豁如堂叢書

22.7 × 15.9 袋 二冊 写

寛政二年

内題「豁如堂叢書八從蓮生辯指要鈔之記」
「山門常樂院亮海蔵」の朱印あり

616

灌頂聞書(明応五年六月十八日)

26.0 × 19.6 袋 一冊 写

享保元年 慈泉

享保三年 嚴覚の校讎了

617

灌頂口決(文明十五年八月十八日)〔良椿〕

27.4 × 19.7 袋 一冊 写

宝永六年 慈泉

嚴覚の字で「宝永六年慈泉が書写した

旨及び同七年謄写厳覚」の識あり、

618 灌頂口決集

27.5 × 19.4 袋 一冊 写

「文永十一年交合了円高」とあるが、
書写は不明

619 伝教大師灌頂私記

27.5 × 19.6 袋 一冊 写

宝永七年 厳覚

「厳覚敬写」とあるも書体は異なる

620 灌頂拾葉抄(三昧流)

27.2 × 19.2 袋 一冊 写

享保二年 慈泉

「享保二年…凌雲大僧正本写靈山院大
僧都慈泉」の次に享保六年…写厳覚と
あり、本文の書体は慈泉のものか

621 灌頂七日行事鈔〔最澄〕

27.3 × 19.4 袋 一冊 写

正徳二年 厳覚

622 三昧灌頂抄 抜帄

27.3 × 19.2 袋 一冊 写

享保三年 厳覚

元禄九年天海藏本写(実観)享保二年
実観本写慈泉、同三年慈泉本写厳覚

623 観心誦経法会記略註(光謙)

26.2 × 16.6 袋 一冊 刊

享保二年

624 冠註観心略要集

26.2 × 18.5 袋 四冊 刊

貝葉書院

寛文十一年版

625 義学接要

23.6 × 16.7 袋 一冊 写

天保六年

山門常楽院亮海蔵の朱印あり

626 義科算題目録

23.3 × 16.8 袋 一冊 写

宝永六年 厳覚

628 教観要旨

23.0 × 15.9 袋 一冊 写

江戸後期

631 教證二道

23.3 × 16.6 袋 一冊 写

二部合冊 二冊目の書誌 24.2 × 17.2 袋
一冊 写 天明八年写

632 行林

28.0 × 20.0 袋 一冊 写

元禄十六年 厳覚

承応二年舜興が二尊院本を書写したも
のを厳覚が書写、21から24まで

633 口決三帖抄

26.9 × 20.0 袋 一冊 写

応永二十六年 金剛佛子順叡

傷みはげし

634

溪嵐拾葉集

一 四 27.0 × 19.4 五 28.1 × 19.9 六 25.6 × 21.0
袋 六冊 写

元禄十一年寛深

宝永六年厳覚伝領

635

A 結縁灌頂記

B 明王院別當職事

27.3 × 19.5 袋 一冊 写

宝永六年 厳覚

A B 二本の合写

636

顯戒論 三卷〔最澄〕

26.1 × 18.4 袋 三冊 刊

寛延二年

比叡山浄土院蔵版

637

顯戒論講辨 三卷〔寛宝〕

23.8 × 16.6 袋 三冊 写

上巻表裏「明治十八乙酉年二月十日開

溝於滋賀院溝」下巻裏表紙表「明治十

八乙酉 卯月二十日閉」各巻裏表
紙に「沙門湛澄謹書」とあり

638

顯戒論講辨 〔寛宝〕

24.2 × 16.5 袋 一冊 写

明治十八年 徳順

巻下のみ

639

顯戒論分科文〔寛宝〕

24.1 × 16.7 袋 一冊 写

明治十八年 徳順

於淡海湖西台嶺大学林南室閑窓下一乗

菩薩比丘徳順謹書写

640

幻幻行事決 二巻

23.6 × 16.6 袋 二冊 写

江戸後期

641

顯密即身成仏考

23.4 × 16.5 袋 一冊 写

江戸後期

642

顯密即身成仏問者論義

25.4 × 17.2 袋 一冊 写

天保十一年

他に「顯密即身成佛問者」〔寂忍房圖書

章の印あり〕「三蔵随惡」〔草稿、天保

五年光蓮〕「顯密即身成仏問者通会」、

「顯密勝劣」、「報恩会精難精義」〔前大

僧正忍蓮〕等を合冊

643

広學堅義記

23.8 × 17.1 袋 一冊 写

正徳三年 充潤

徳潤が青蓮院無品親王蔵本を弟子充潤
に書写させたもの

644

廣學堅義探題故實記

24.1 × 17.0 袋 一冊 写

享保十年 恵潤

645

廣學堅義探題故實記

27.4 × 19.3 袋 一冊 写

昭和七年 良謠

644の写し

646 合灌私記(法曼流)

27.3 × 19.5 袋 一冊 写
享保二年 厳覚

647 弘仁三箇口決

24.1 × 17.1 仮 一冊 写
江戸後期か
大永五年十一月幸鏝のものを書写したものか

649 牛王寶印辨(寛深)

27.4 × 19.7 袋 一冊 写
宝永頃
九字辨(寛深)を合写

650 求聞持記

25.5 × 18.8 袋 一冊 写
天文四年 盛運
天文四年乙未五月晦日白山水吞寺盛運

651 求聞持雜集(二卷)

27.6 × 19.7 袋 一冊 写
正徳五年 厳覚

652 求聞持目安(慶長十一年八月)

27.3 × 19.6 袋 一冊 写
寛文七年 寛照(寛深)

「求聞持相伝聞書」「求聞寺私記」「求聞持行用私記」(以上寛文七年書写)宝永五年謄写厳覚とあるも筆は寛深のもの「静光院寛照後改寛深豪寛」と厳覚の字あり

653 求聞持類聚記

27.3 × 19.6 袋 一冊 写
寛文七年 寛照
宝永六年厳覚とあり寛深より
厳覚が伝領したか

654 許可私記

26.0 × 19.6 袋 一冊 写
享保二年 慈泉

655 子嶋灌頂記

27.7 × 19.6 袋 一冊 写
享保三年 慈泉
享保四年謄写厳覚の記入あり

656 御受戒法則

16.4 × 23.5 他 一冊 写
江戸中期か
外題(直)は「御受戒表白」

657 虚心記

23.7 × 16.5 袋 一冊 写
寛永三年 尊純
雞頭院蔵

658 護摩聞書

14.0 × 19.5 袋 一冊 刊
刊記なし、江戸前期か

659 護摩私要抄

享保三年 厳覚の「一較了」にあり

26.6
19.1 袋 一冊 写
享保頃

660 護摩秘記〔平原〕

23.4
13.7 列 一帖 写
鎌倉後期頃の古写本か、表紙に「西塔院主東陽平原記」とあり

661 欣求靈山講式

27.5
19.3 袋 一冊 写
正徳二年 厳覚

662 金剛界灌頂儀軌

27.4
19.4 袋 一冊 写
巻下のみ

雞頭院藏朱印

663 金剛界灌頂私記三昧流

27.3
19.3 袋 一冊 写
享保二年 慈泉
享保三年 一校 厳覚

664 金剛界降三世立色法

23.4
16.8 袋 一冊 写
宝永七年 信敬
厳覚が如来藏本を借りて弟子信敬に書写させたもの

665 金剛界雜集

27.8
19.7 袋 一冊 写
正徳五年 厳覚
外題は「金雜集」、第八のみ

666 金剛界大法対受記〔第四・五〕〔安然〕

27.5
19.2 袋 二冊 写
貞享四年
第四は享保二年青蓮院藏本対校、第五は貞享四年頃の書写か

667 金光明經千部書写幹縁疏 慈覚大師御草

23.7
17.1 袋 一冊 写
元禄八年 厳覚
元禄八年尊純親王直筆の本より書写

668 西塔院新旧観学講法則・山洛論義古実集

27.8
19.4 袋 一冊 写
元禄十六年 厳覚
合写本

669 雜集私記

21.6
14.0 袋 一冊 写
天保十四年
「台宗二百題卷第九」〔内題〕とあり、裏表紙「雞頭院本覚藏」と墨書あり

670 〔雜疏〕

27.8
20.0 仮 一冊 写
文化十年 深成

671 〔雜註断片〕

三十三葉

672 三戒作法次第

23.8
17.0 袋 一冊 写
天明二年

- 673 三学鈔 顯・密・戒部
23.0 × 16.3 袋 三冊 写
享保三年 慈泉
享保四年 一校 嚴寛
- 675 校再山家学生式
22.6 × 15.5 袋 一冊 刊
明治二年
- 676 三身義私記 (承久五年)
14.1 × 20.7 他 一冊 写
江戸後期か
- 677 三昧流由来事書
23.4 × 17.0 袋 一冊 写
宝永四年 松菴
嚴寛が松菴に書写させたもの
- 678 三摩耶戒儀 (法漫流)
27.4 × 19.7 袋 一冊 写
享保 嚴寛
五卷の内二卷、元奥書寛永四年実祐

- 679 山密往来 (実嚴)
28.2 × 19.6 袋 一冊 写
元禄二年 嚴寛
- 680 山門穴太流受法次第
28.2 × 19.7 袋 一冊 写
延宝八年 円朗 (嚴寛)
- 681 山門探題事 天文十七年五月
28.6 × 20.0 袋 一冊 写
貞享二年 嚴寛
(越野軒本)
- 682 山洛論義古実
26.8 × 19.3 袋 一冊 写
安永七年 良謹
講説用意事など 山王講の記述あり
- 683 試学暗誦略頌
27.2 × 18.0 袋 一冊 写
大正二年 田中如是

- 684 四教五時八教之科
46.1 × 31.7 一枚 写
明治十五年 徳順
於台麓第一号学林金剛仏子徳順
- 685 四種三昧義
28.0 × 19.7 袋 一冊 写
延宝七年 実舜
四種枕月集 (内題) 堅者実舜後改嚴寛
とあり
- 686 地藏鈔 (仮題)
23.3 × 16.0 袋 一冊 写
近世後期
- 687 七仏薬師法
26.8 × 19.2 袋 一冊 写
寛文七年 幽尋
- 688 私聞書抄秘々極々

27.3 × 19.5 袋 一冊 写
宝永五年 嚴覚

689 若州永福和尚説戒

26.4 × 18.8 袋 一冊 刊

明治 貝葉書院

外題(箋)は「面山説戒」、宝暦九年版
本

690 遮那業案立

28.0 × 19.2 袋 二冊 写

正徳元年 嚴覚

「遮那業案立草」(内題) 第二冊の方
は慶安五年江州芦浦観音寺法印舜興の
書写

691 遮那業論談

27.8 × 19.4 袋 一冊 写

正徳元年 嚴覚

692 重位故実抄

27.8 × 19.8 袋 一冊 写

宝永七年 嚴覚
元奥書は寛文七年寛照

693 授円頓菩薩戒儀

25.1 × 17.2 袋 一冊 写

明治三十年 徳順

「於湖西阪本戒光山西教寺勸学寮台末
沙門辻井徳順」とあり

695 授大灌頂作法次第

27.1 × 19.4 袋 一冊 写

宝暦十二年 真源

696 授大灌頂作法次第(胎蔵界・金剛界)(水尾
玄静阿闍梨述)

27.8 × 19.5 袋 一冊 写

享保三年 慈泉

外題(直)は授大灌頂次第 享保十二
年対鑑嚴覚 元奥書は宝永六年慧旭曇
寂

697 受明灌頂作法次第(胎蔵界・金剛界)(水尾
玄静阿闍梨述)

28.0 × 19.5 袋 一冊 写
享保三年 慈泉

外題(直)「胎金受明灌頂私記」 享保
四年一校嚴覚 元奥書は宝永六年慧旭
曇寂

698 請雨法私記(寛照)

27.6 × 19.6 袋 一冊 写

宝永五年 嚴覚

699 浄地記(慈覚大師撰)

27.8 × 19.5 袋 一冊 写

宝永四年 松安

嚴覚が松安に命じて書写 禅定院蔵本

700 聖天縁起集

27.9 × 19.9 袋 一冊 写

「聖歡喜夫縁起由来之事」(寛文十九
年、玄重書写)、「溪嵐拾葉集」(奥書な
し)、「秘密要集」、「聖天講式」を含む

702 初学暗誦要文

24.7 × 17.3 袋 一冊 写
嘉永二年 慈室房

「沙弥学戒儀軌頌」(廣州沙門弘贊在慘
通)「音釈」「初学暗誦要文」四教略頌
五時略頌」(山王院述)の合写

703 初心暗誦要文(天台沙門光映輯)

24.3 × 16.4 袋 包背装 一冊 写
明治十二年 徳順

704 真如観(源信述)

25.9 × 18.3 袋 一冊 刊
元禄五年 丁子屋庄兵衛

705 西逝法語

27.5 × 19.9 仮 一冊 写
江戸末
【真盛上人法語】を合写

706 西窓随筆顯密故実(覚深講)

22.5 × 16.6 袋 一冊 写
江戸中期

「天台山兜率溪雞頭院」の蔵本

707 仙洞御灌頂條條

26.0 × 19.4 袋 一冊 写
享保二年 大僧都慈泉

同上題に「二年三月」とあり、「正安二
年八月十一日於仙洞被始行熾盛光法」
を付す「嚴寛一校了享保三」とある

708 息災護摩口訣安

22.2 × 15.5 袋 一冊 写
義寛

「右一卷豎者本抄房義寛」とあり「雞
頭主人慈瑗、良謀傳領」とあり

709

蘇悉地羯羅重玄門儀軌附蘇悉地記・蘇悉地
略(延暦寺都法阿闍梨福聚金剛集)

27.8 × 19.5 袋 一冊 写

①享保二年 嚴寛
②享保二年 嚴寛

710 大会新記(万治二年附延宝三年議欠)

27.8 × 19.9 一冊 写

①元禄十年 嚴寛

②宝永五年 嚴寛

【制詞之條目】①「大会議定」②「大
会奉行谷定下行分」「今度三奉行七ヶ条
付御理之條々」を付す

711 大会新記 附 己講普寂之狀

24.0 × 16.0 袋 一冊 写
江戸中期 嚴寛

712 大会題名略供奉記

19.7 × 12.9 一冊 写
宝暦七年

713 探題故実記

27.1 × 18.0 袋 一冊 写
享保二十年 徳潤

「享保二十乙卯夏六月初六日台山覚林
探題權僧正徳潤玉考講記録撮要編集之
者也」とある

714 大戒決疑論 三卷

24.9 × 17.0 仮 一冊 写

中巻末に「右享保六年七月答へ玉フ
條々」とあり

715 胎灌私記（法要流）

27.4 × 19.9 袋 一冊 写

江戸中期

「寛永四年十月八日良山南谷吉祥院実
祐」の元奥書あり

716 大堂豎義式目

27.4 × 19.2 袋 二冊 写

明和七年 良謙

717 大堂豎義式目

26.8 × 19.0 袋 二冊 写

享保元年 徳潤

718 虚空蔵秘密法門要鈔

22.6 × 16.0 袋 一冊 写

嘉永七年 苾芻光親

719 第五秘密壇私記（大原常寂房契中述）

27.2 × 19.1 袋 一冊 写

宝永二年 厳覚

720 灌頂第七日夜記附決三種悉地法

27.4 × 19.9 袋 一冊 写

正徳四年 慧脈

「決三種悉地法」は正徳六年 厳覚、

但し、本文は慧脈と同字で、奥書のみ

別字

722 台宗小学科読本

24.4 × 17.1 袋 包背 一冊 写

明治末

右のうち「自我偈」「菩薩戒経」の写し

723 台宗二百題 一五巻（沙門亮潤謹撰）

26.8 × 18.6 袋 一五冊 刊

享保八年（長谷川）文会堂蔵版

724 台宗二百題補助記

725 台宗二百題補助記

26.9 × 19.9 袋 三冊 写

「干時文化四丁辰年秋二月始、初冬至ニ
九月終書己矣／台宗沙門釈子舜昌蔵／
仙波星野山内住ニ学校ニ写レ之也」

726 台宗二百題補助記

27.0 × 18.8 袋 五冊 写

727 台宗二百題補助記

26.2 × 19.9 袋 二冊 写

外題 二百題補助記

728 大聖大歡喜雙身毘那耶迦徴決

23.7 × 16.7 袋 一冊 写

享保十七年 慈瓊識

外題 歡喜天徴決

729 胎蔵界灌頂私記 三昧流

733	大法元三會條式附 比叡山元會由來之事 25.2 × 17.4 袋 一冊 写 嘉永二年 真洞	732	大悲胎藏嘉會壇中修灌頂時七日行法々用次第 24.9 × 17.6 袋 二冊 写 享保三年 慈泉 外題 嘉會壇灌頂七日行法次第	731	大日經七支念誦作法 23.9 × 16.9 袋 一冊 写 宝永五年 嚴覺 外題 七支念誦法	730	胎藏界三部密記〔元果〕 27.4 × 19.4 袋 一冊 写 享保元年 嚴覺 外題 胎灌私記 享保三年嚴覺繕写		
740	探題記〔雲快〕 28.6 × 19.8 袋 一冊 写 貞享元年 嚴覺	739	探題記〔雲快〕 24.2 × 16.9 袋 一冊 写 正徳六年 定玉	737	台門初步〔慈薰〕 25.4 × 16.9 袋 一冊 写 三卷	736	台門指月鈔 26.3 × 18.5 袋 一冊 刊 明治十八年 赤松宣吉 二卷	734	元三會雜記 21.2 × 13.6 袋 二冊 写 外題・大法元三會定式附仮名縁起書一章
745	通相三觀弁 28.6 × 20.1 袋 一冊 写 外題 通相弁	744	通受菩薩戒手文 24.3 × 16.7 袋 一冊 写	743	枕月集 14.6 × 19.8 他 十一冊 写 近世初期	742	著述雜集 27.5 × 20.0 袋 一冊 写 元禄九年 嚴覺 以下を含む 澄憲作 和歌政所一品經 供養表白、八幡八講結願、諷誦歎德、慈惠真影裏書、兩大師講八講祈句	741	探題故実私記 27.5 × 19.3 袋 一冊 写 明和七年 良謨

753	天台四教階位図	752	天台山延暦寺灌頂阿闍梨宣旨官牒 28.3 × 20.1 袋 一冊 写 天和二年 寛深	751	天台灌頂玄旨私記 26.4 × 18.4 袋 一冊 写 明治四十二年 徳順	749	天台一宗超過達磨草〔良助親王〕 23.7 × 17.1 袋 一冊 写 宝永四年 松安	747	天台円宗四教五時名目 27.8 × 19.4 袋 一冊 刊 寛永七年 杵田勘兵衛	746	天台円宗四教五時西谷名目 26.4 × 18.7 袋 二冊 刊 外題 西谷名目
	外題 天台要集	758	天台宗要集 27.3 × 19.3 袋 一冊 写 明治三十九年 徳順	757	天台宗秘決要集 27.7 × 19.7 袋 二冊 写 享和三年 良謹 外題 秘決要集	756	天台宗探題愚記 27.4 × 19.3 袋 一冊 写 明和七年 良謹 外題 探題実助記	754	天台宗綱要 25.5 × 18.2 袋 一冊 刊 元文四年 吉田四郎右衛門 外題 台宗綱要		84.3 × 35.4 他 一枚 刊 明治二十五年 宇田総兵衛
	外題 学生式	763	天台法華宗年分学生式 23.7 × 16.8 袋 一冊 写 宝永二年 厳覚	762	天台法華宗年分縁起・天台法華宗年分学生式 25.4 × 18.4 袋 一冊 刊 外題 年分縁起学生式	761	天台法華宗年分縁起 29.9 × 19.9 袋 一冊 写 元禄七年 厳覚	760	天台念仏五箇大意 28.1 × 20.2 袋 一冊 写 大正三年 徳順	759	天台真言二宗同異章 25.9 × 18.5 袋 一冊 刊 明治三十一年 山田常蔵

764 天台法華宗年分學生式・金剛頂瑜伽中究阿

釋多羅三藐三菩提心論

22.3 × 16.4 袋 一冊 写

明治十五年 德順

外題 天台學生式・菩提心論

765 天台兩法華會記

28.1 × 19.9 袋 一冊 写

嚴覺

外題 大会新記

766 伝法灌頂記〔弁覺〕

27.3 × 19.7 袋 一冊 写

享保三年 嚴覺

767 伝法灌頂教授用意

26.2 × 19.5 袋 一冊 写

享保三年 嚴覺

768 伝法要決抄

27.3 × 19.3 袋 一冊 写

慶安五年 良憲（本奥書か）

769 内證授他考

23.4 × 16.7 袋 一冊 写

明治以降

770 二間觀音供事

23.5 × 16.8 袋 一冊 写

外題 雜集觀音供

771 改刻西谷名目

26.1 × 18.5 袋 四冊 刊

明治九年 唯我韶舜

773 入真言門住如実見講演法華略儀

26.0 × 18.0 袋 一冊 刊

外題 講演法花儀

774 入真言門住如実見講演法華略儀

26.1 × 18.8 袋 一冊 刊

外題 講演法華儀

775 入曼荼羅受菩薩戒行儀

27.7 × 19.6 袋 一冊 写

享保四年 嚴覺

後半は享保二年天忠貞日成書写（合写）

776 如風遺稿

22.7 × 15.4 袋 一冊 刊

明治

777 仁忠和尚八箇問答

23.7 × 16.7 袋 一冊 写

宝永四年 知空

778 仁王般若仏母大陀羅尼註釈

23.2 × 16.4 袋 一冊 写

近世後期 惠輪

779 八家灌頂密印

27.6 × 19.0 袋 一冊 写

正徳二年 嚴覺

780 八千枚護摩記

785	784	783	782	
仏母曼拏羅念誦要法集	秘密灌頂理護摩行	秘密五重鈔	秘藏金宝集	22.9 × 16.1 袋 一冊 写
15.1 × 20.7 袋 一冊 写	26.1 × 19.6 袋 一冊 写	27.2 × 19.4 袋 一冊 写	22.9 × 16.9 袋 二冊 写	文久元年 光親 善達
宝永二年 厳覚	享保三年 厳覚	享保二年 厳覚	正徳六年	
外題 仏母曼陀羅要集		下巻のみ	外題 金宝集 厳覚南宮知足院に命じて書写とあり	
790	789	788	787	786
別向円修弁	不動立印儀軌私記	不動明王立印儀軌修行次第并秘記	不動明王秘教要決	不動灌頂密印
24.0 × 17.2 袋 一冊 写	27.2 × 19.5 袋 一冊 写	29.7 × 19.5 袋 一冊 写	23.5 × 16.6 袋 一冊 写	23.5 × 16.8 袋 一冊 写
道順	享保三年 慈泉	厳覚註記	元禄三年 厳覚	寛政九年 恵厳
			外題 不動秘要決	
796	795	794	793	792
菩薩次第明據	方便抄	別尊伝受口決集	別接通約弁	別請豎義問答章
27.6 × 19.4 袋 一冊 写	23.1 × 16.9 袋 一冊 写	27.1 × 19.5 袋 一冊 写	26.2 × 18.7 袋 一冊 刊	27.4 × 19.3 袋 一冊 写
	享保三年 厳覚	享和二年 良謹	慶応三年の識語あり	
		外題 別尊伝受集三四五		寛政十一年
				791
				別請豎義記
				23.8 × 16.9 袋 一冊 写

本奥書 享保四年嚴覚

797 両法華会講師勤方記

27.0 × 19.4 袋 一冊 写
明和三年 良謚

798 法華会講師普隨記

27.0 × 19.4 袋 一冊 写
明和二年 良謚
内題 大会講師勤方記

799 法華懺法私〔定珍〕

27.4 × 19.1 袋 六冊 刊
正保四年 林甚右衛門

800 法華秀句

26.0 × 18.4 袋 四冊 刊
明治三十二年 天台宗務庁 貝葉書院

801 法勝寺円頓戒儀

23.8 × 16.2 袋 一冊 写
大正八年 徳順

〔勢陽洞津龍宝山西来三八世真澄徳順〕とあり

802 末法燈明記

26.5 × 18.8 袋 一冊 刊
沢田文栄堂 菱屋友五郎

803 (未詳註疏)

22.2 × 16.2 袋 一冊 写
江戸後期
断片

804 密教印信鈔

27.6 × 19.5 袋 一冊 写
正徳三年

外題(箋)は「密教諸印信」

805 密法相承審論抄〔慈遍〕

27.3 × 19.6 袋 一冊 写
覚照か

奥書は本文と別筆で「宝永五年曆写嚴覚」とあり

806 密門略條制

23.8 × 16.4 袋 一冊 写
享保十五年 実蔵(?)

807 妙成就記

28.0 × 19.6 袋 一冊 写
正徳二年 嚴覚
本文は嚴覚の書体と異なる

808 妙心大〔慈覚大師撰〕

23.7 × 16.7 袋 一冊 写
「宝永三年十月今日雞頭院嚴覚」のメモあり

809 無動寺勸学講記

23.6 × 17.0 袋 一冊 写
正徳三年 嚴覚か

810 山科毘沙門法華修之記

23.7 × 16.4 袋 一冊 写
宝永八年 信敬

嚴覚が書写させたもの

811 薬師如来沓冠式〔伝教大師〕

27.7 × 19.4 袋 一冊 写

寛政二年 西教寺上人

813 離作業灌頂私記

27.4 × 19.2 袋 一冊 写

享保四年 嚴覚

814 離作業略記〔覚超〕

27.4 × 19.2 袋 一冊 写

承応三年

815 理趣経雑集

23.5 × 16.8 袋 一冊 写

下巻のみ 元奥書は弘安二年書写澄円

816 栗太講用意

27.8 × 19.9 袋 一冊 写

元禄十一年

覚深蔵

817 立印儀軌鈔

27.4 × 19.6 袋 一冊 写

貞享四年 慈仙

宝永七年嚴覚の署名あり

818 両法華会探題記

24.2 × 16.7 袋 二冊 写

正徳五年・六年 成潤

内題は「山門両法華会探題補任事」下

巻の内題は「探題記下嘉吉三十一尊勝

院記」

819 例講問答

23.6 × 16.7 袋 三冊 写

享保三年 嚴覚

内題は「文句猪熊問答要経一」「文句猪

熊問答経二」「文句例講問答経八」

820 蓮台灌頂

27.3 × 19.5 袋 一冊 写

享保二年 慈泉

元奥書は元禄九年実観、享保三年嚴覚
も一較了

821 六道講式

24.2 × 16.6 袋 一冊 写

弘化四年 妙可(?)

譜点あり

822 (論義書)

27.5 × 20.5 仮 一冊 写

823 論議所作故実

24.0 × 17.0 袋 一冊 写

江戸後期か

内題は「論談故実」

824 論議所作言故実條々

18.4 × 13.4 仮 一冊 写

明治十九年 徳順

825 論議草稿

23.1 × 16.5 袋 三冊 写

- 天保十二年 專浄庵雲窓
内題は「澄神律師法華教主按立」
二冊目は外題「論集」、延享五年の書写
本文等を含む取りまぜ本
三冊目は外題「論儀草稿」
四冊目は外題「論議草稿雜集抄」「台宗
沙門徳性文庫」の墨書き
- 826 戒法隨身記
23.9 × 18.3 袋 三冊 刊
貞享四年 永田調兵衛
- 827 斎別受八戒作法
26.0 × 16.6 袋 一冊 刊
貞享三年
外題(箋)は「八斎戒作法」
- 828 俱舎七十五法大意(慧澄(癡空))
23.4 × 16.1 袋 一冊 刊
嘉永六年 和泉屋庄次郎
- 829 行基菩薩遺誠并式目
-
- 24.8 × 17.4 仮 一冊 写
天明三年 帙 虫損
元奥書「元文三年一乗山久藏院法庫所
藏之本謄写校讐也於泉南久井律院横山
沙門葛城氏拜書」
- 830 南都叡山戒勝劣事
23.8 × 17.2 袋 一冊 写
貞享四年 胤兼
外題は「法相三國伝来并天台勝劣事」
雞頭院蔵の墨印あり
- 831 愛染法
26.5 × 19.4 袋 一冊 写
享保三年 厳覚
元奥書嘉禎二年 厳覚が写したものは
慈泉書写本
- 832 開眼略作法口決
23.8 × 16.8 袋 一冊 写
享保七年 真源
-
- 833 歡喜抄
25.2 × 18.0 仮 一冊 写
嘉永四年 快貢
於洛東粟田天王社別当勸喜院書写之畢
同院第二十一世隠居僧 大慈院快貢
五十
- 834 歡喜天秘決
27.5 × 20.3 袋 二冊 写
慶応元年 徳興
- 835 歡喜天要記
27.5 × 19.5 袋 一冊 写
江戸末か
内題は「歡喜天所甚深悉決秘」
- 836 戒律口決(ケンビラ)
23.9 × 16.7 袋 四冊 写
明和元年 真源
第三冊目に書写年等の記載あり
- 837 弘法大師遺誠

23.4 × 16.4 袋 一冊 写
享保五年 嚴寛

838 弘法大師遺告

27.6 × 19.9 袋 一冊 写

元禄二 松順

甚敬所持本、別筆で元禄二年六月以三
院文庫之本令松順写嚴寛、別本云……」
とある。

840 護摩法略抄

27.4 × 18.9 袋 一冊 写

宝永六年 嚴寛

841 護摩法略法

23.6 × 16.4 袋 一冊 写

元禄十二年

今元禄十一戊寅孟春十七日曆了同二月
六日一校了、武城北岡靈雲開山
元禄十二丁卯十月 写之了清浄金剛求
之

842 三宝院印融抄

27.3 × 19.9 袋 一冊 写

江戸中期

843 三摩耶戒撮要

23.4 × 16.6 仮 一冊 写

江戸末

844 釈尊御舍利義記〔空海撰〕

21.0 × 13.6 仮 一冊 写

江戸末

845 常住金剛私記〔慈恵大師撰〕

27.3 × 19.9 袋 一冊 写

享保二年 嚴寛

846 常住金剛私記〔慈恵大師撰〕

26.6 × 19.3 袋 一冊 写

正徳六年 慈脉

847 常住金剛私記

27.3 × 19.3 袋 一冊 写

享保十七年 義寛

849 水歡喜天

24.1 × 16.6 仮 一冊

江戸末

850 大疏論義草紙私

23.6 × 16.8 仮 一冊 写

延享四年 裔寅

維延享第五龍集、祥永寺現在貧道仲之

裔寅二十七歳

851 密傳法灌頂法則

27.4 × 19.7 袋 一冊 写

寛文五年 智洪

852 秘密法則〔金剛峯寺沙門妙瑞撰〕

27.1 × 18.9 袋 一冊 写

延享元年 村上勘兵衛

卷下のみ

853 秘密要集弁財天

27.3 × 19.6 袋 一冊 写 宝永五年 厳覚	854 不動尊愚鈔 27.6 × 19.4 袋 一冊 刊 江戸中期か 本屋五郎衛門開板	855 不動尊愚鈔 26.6 × 16.9 袋 一冊 刊 江戸中期か 甚左衛門板	856 弁天修儀類聚 27.2 × 19.7 袋 一冊 写 江戸前期	858 恵心僧都念仏法語承習〔堯款註〕 22.6 × 15.2 袋 一冊 刊 慶応二年 和泉屋庄次郎	859 恵心僧都念仏法語便蒙〔浄萊舎羅磨拏鹹海 述〕 26.0 × 17.8 袋 二冊 刊
----------------------------------	---	--	--	--	---

天保三年 雪華堂蔵版 28.0 × 20.2 包背装 一冊 写 大正元年 徳順	860 恵心流五重相伝手記	27.8 × 20.1 仮 一冊 写 大正十五年 徳順	861 五重相伝	26.4 × 18.0 袋 一冊 刊 安永九年 西来寺蔵版	862 円戒国師安心法語研心解	19.8 × 8.9 折 一帖 刊 江戸末か 斎藤嘉兵衛	863 円戒国師御法語	26.0 × 18.7 袋 二冊 刊 天保十年 西教寺蔵板	864 往生捷徑集
--	------------------	-----------------------------------	-------------	-------------------------------------	--------------------	------------------------------------	----------------	-------------------------------------	--------------

25.7 × 18.5 袋 三冊 刊 明治初か	865 往生要集	24.6 × 17.0 袋 一冊 刊 騰写印刷昭和六年	866 往生要集大意開講要義	25.3 × 19.0 袋 四冊 刊 正徳四年 林源兵衛他	867 往生要集和解	27.3 × 17.6 袋 一冊 刊 寛延二年 吉野屋藤兵衛	870 吉水辟邪訓疏	17.8 × 12.3 袋 一冊 刊 天保八年 岩垣伝衛門	872 三部仮名抄	27.5 × 19.0 袋 一冊 刊 浄宗円頓菩薩戒誘蒙	875 浄宗円頓菩薩戒誘蒙
-------------------------------	-------------	-----------------------------------	-------------------	-------------------------------------	---------------	--------------------------------------	---------------	-------------------------------------	--------------	------------------------------------	------------------

享保十八年
内題は、「菩薩戒誘蒙」

878 念仏不求利玉

22.6 × 15.4 袋 一冊 刊
明治九年 松沢庄次郎他

880 真禪融心義(栄西)

27.0 × 19.5 袋 一冊 写
寛政十年 良謹

「仁王般若經五大力菩薩秘釈」一卷を
合写

881 仏祖
正伝禪戒本義

26.0 × 18.5 袋 一冊 刊
明治初年 貝葉書院
安永三年板本

883 垂戒
因縁仏戒俚語

26.3 × 19.0 袋 一冊 刊
天保十二年 小川多左衛門

884 仏説大蔵正教血盆經

25.2 × 17.1 袋 一冊 写
江戸末
内題は「血盆經日本流転之由来」

885 切支丹宗門来朝実記

27.4 × 19.8 袋 一冊 写
天明三年
雞頭院藏本

886 嶋原記録

23.6 × 16.9 袋 一冊 写
宝永七年 厳寛
卷四・卷五のみ、外題は「嶋原記」

888 肥前国嶋原切利死丹峰起記

26.8 × 20.0 仮 写
正徳三年 佃元貞

889 群書類従目録

15.5 × 11.6 袋 一冊 刊

890 本朝書籍総目録

14.6 × 21.2 袋 一冊 写
延宝八年 円朗(厳寛)

891 頭書大広益節用集

27.0 × 19.4 袋 一冊 刊

892 大全早引節用集

12.2 × 18.0 袋 一冊 刊
嘉永七年 須原屋茂兵衛他

893 早引節用集

11.9 × 18.1 袋 一冊 刊
嘉永四年 須原屋茂兵衛他

896 江談抄

28.0 × 19.8 袋 二冊 写
貞享四年 寛深
五卷二冊

897 刻新古今注

23.8 × 16.6 袋 一冊 写

外題(直)は「古今註」巻末釈榮照書
とあり、巻上ののみ

898 続古事談

26.5 × 19.3 袋 一冊 写

江戸中期

乾のみ

900 御伽万宝蔵

26.8 × 18.0 袋 一冊 刊

享保 柏原屋

聖泰百人一首

901 女小学教章

26.0 × 18.3 袋 一冊 刊

宝歴十三年

902 孝養門

22.0 × 15.4 袋 一冊 刊

巻首に「孝養門孝学堂孝弟中」とあり

903 前訓

22.4 × 15.9 袋 一冊 刊

寛政四年(改刻) 皇都書林寿館

安永二 安永七年再版

刊記に「四条通富小路西入町、中嶋勘

兵衛蔵板」

904 道二翁道話六篇

22.0 × 15.5 袋 三冊 刊

天保十年 大阪 河内屋喜兵衛 本屋

吉兵衛

905 父子訓(中村弘毅士卿甫)

22.5 × 15.7 袋 二冊 刊

文化八年 京都書林 岩崎卯之三郎

葛西市郎兵衛

908 考経(弘安国(序))

24.9 × 16.6 袋 一冊 刊

外題「字大古文考経正文再版」

909 考経国字疏

27.4 × 20.2 仮 一冊 写

明治九年 辻井徳順

910 五経白文

19.7 × 13.6 袋 十一冊 刊

元禄八年 皇都村上平楽寺蔵版

詩経二、書経二、春秋一、易经二、「禮

記」四冊目末に「元禄八_{乙亥}年_{林鐘吉日}村上平楽寺

辭梓」

911 四書

25.9 × 18.4 袋 十冊 刊

明治十四年

外題「新刻大学」 原板佐土原學習館

出版人本城小兵衛 京都書林川勝徳次

郎他

912 慶応
新刻四書

17.4 × 12.0 袋 四冊 刊

京都書林奎章閣板

外題「慶応_{片假名附}学康_{片假名附}」 大阪 河内屋

喜兵衛 京橋 山城屋政吉他

913 四書国字弁〔東都東山先生〕

22.5 × 16.3 袋 六冊 刊

寛政六年 須原茂兵衛 中村藤四郎他

914 春秋経伝集解

28.8 × 19.6 袋 十五冊 刊

宝暦十二以前

卷末に「宝暦十二に惟貞写」とあるのは、元禄五、六年にかけ伊藤長胤が青筆、朱筆で書き入れたものの意、よつて、宝暦以前刊。

915 大学定本釈義〔紹述（伊藤長胤）著・度会

末済撰〕

27.5 × 17.9 袋 二冊 刊

元文四年 京兆奎文館

下冊に「附六議」

916 中庸発揮標釈〔伊藤長胤〕

27.3 × 18.7 袋 二冊 刊

元文五年 京兆文泉堂

917 孟子

26.4 × 18.8 袋 四冊 刊

寛文十年 書林 洛陽烏丸積徳堂

918 孟子解

26.0 × 18.0 袋 七冊 刊

一冊見返しに「龍洲先生著 浪華宝文堂」、七冊末に「浪華書林 河内屋喜兵衛梓」

919 論語

23.4 × 15.8 袋 一冊 刊

江戸中期 朱熹集註

920 論語集解〔平安東厓先生考訂〕

26.4 × 17.7 袋 二冊 刊

享保十七年 千鍾堂須原茂兵衛

921 列子虞齋口義

26.9 × 18.6 袋 四冊 刊

万治二年

列子虞齋口義

922 相法言諺解

22.7 × 15.8 袋 四冊 刊

安永五年 江都 須原茂兵衛 京都

勝村治右衛門

「吉備之中洲南澗浪士應亨齋革叟柴且俚自序」とあり

923 人相ノ弁

14.1 × 20.5 仮 一冊 写

外題に「居行子人相ノ弁」(本来五冊本のうち「人相乃弁」の部分のみ)

925 雲罔論〔佐田介石撰〕

22.5 × 15.5 仮 一冊 刊

明治期

926 手爾盤仮名伝

24.0 × 16.1 袋 一冊 写

江戸中末期

巻首から「和訓傳授記」「和訓長平傳」

927 和字大觀鈔〔無相桑門文雄撰〕

22.6 × 15.5 袋 一冊 刊

宝曆四年

卷上のみ

928 広益以呂波雜韻刊誤

22.4 × 15.8 袋 一冊 刊

寛文十年 ふ屋仁兵衛開板

後付の外題に「以呂波雜韻」柱に「広

益伊呂波韻」(書名再校訂か)

巻下

929 鐫銅広通字林大全

12.4 × 18.1 袋 一冊 刊

明治十一年 愛知県書林 慶雲堂

930 草書彙略

25.8 × 18.0 袋 二冊 刊

江戸末期

巻之四、十五画まで

931 増補大広益会玉篇大全〔毛利貞齋〕

23.3 × 16.6 袋 十二冊 刊

元禄五年 鍵屋善兵衛開板 澤村昌益

932 増補大広益会玉篇

22.4 × 15.9 袋 九冊 刊

江戸中期

うち検字一冊

933 増補大広益会玉篇

22.4 × 15.9 袋 一冊 刊

江戸中期

右の五冊目「巻四末」と同版 柱に「和

漢玉篇」四下とあり

934 輶軒使者絶対語釋別國方言

25.8 × 16.2 袋 三冊 刊

寛文九年 平野屋佐兵衛

外題に「楊子方言」

935 和英通語〔松岡章編〕

22.1 × 15.4 袋 二冊 刊

明治五年 好問堂

東京書肆 須原茂兵衛 西京書肆 小

川盆助(十四名)

936 古今灌頂和歌式〔不住人丸之作〕

24.4 × 16.3 袋 一冊 写

弘化三年 天台沙門慈潤

937 和歌三式

28.1 × 20.0 袋 一冊 写

元禄四年 覚深

喜撰式 孫姫式 浜成式

938 桑葉和歌抄〔湛澄〕

26.8 × 18.2 袋 三冊 刊

宝永五年(跋) 江府書林 松葉清四

郎

939 比叡山記〔多々良義興〕

23.4 × 16.8 袋 一冊 写

宝永六年 厳覚

940 百歌集

11.2 × 15.6 袋 一冊 写

明治十五年 徳順

941 豊公歌集〔日下寛編〕

22.3 × 13.9 袋 一冊 刊

明治三十一年 日下寛

942 鷹百首

23.4 × 16.4 袋 一冊 写

(江戸末以降)

外題に「鷹百首慈鎮和上」とあり

943 日吉七社各十五番歌合〔慈鎮〕

22.7 × 18.8 袋 一冊 写

江戸中期 周栄

慈鎮歌 俊成判

944 猿蓑集

23.1 × 16.1 袋 一冊 写

江戸中末期

945 俳諧古選

16.8 × 11.2 袋 一冊 写

江戸中末期

貞徳、守武から蕉門まで

946 謡曲西国廻

23.8 × 16.0 袋 一冊 刊

大正十年

947 風流羅理訖俳

20.9 × 13.3 袋 一冊 写

外題「俳家妙々奇談」

948 作文記事論説文例〔西村義民〕

17.3 × 12.1 袋 二冊 刊

明治二十一年 中村芳松他

949 虚実作文軌範〔中邨每〕

12.9 × 19.0 袋 二冊 刊

明治九年 柳原喜兵衛

950 作文啓上〔西野古海〕

22.6 × 15.5 袋 三冊 刊

明治十年 吉田直次郎他

951 いつく嶋御幸の道の記〔源通親〕

28.0 × 20.7 袋 一冊 写

江戸中期

952 永享行幸記

26.5 × 19.5 袋 一冊 写

江戸末期

953 北山行幸記〔中山宣親〕

26.6 × 19.5 袋 一冊 写

江戸中期

別筆にて「貞享四年丁卯初冬十八日、

山門雞足院住、法印大僧都寛深識」の

跋あり

954 小嶋口号〔二条良基〕

28.3 × 20.0 袋 一冊 写

元禄五年 厳覚

959	北国記〔堯恵〕 28.6 × 20.5 袋 一冊 写 元禄五年 寛深	958	つれづれ草〔吉田兼好〕 25.4 × 18.0 袋 一冊 刊 元文五年 鼎直堂	957	つれづれ草〔吉田兼好〕 27.5 × 19.3 袋 二冊 刊 正保二年 林久次郎 林源兵衛	956	富士歴覽道記〔二楽軒飛鳥井栄雅〕 28.9 × 20.7 袋 一冊 写 江戸中期	955	四季の物語〔鴨長明〕 27.8 × 19.9 袋 一冊 写 享保二年 厳覚
964	雅俗要文〔曲亭馬琴〕 17.7 × 12.0 袋 一冊 刊 青雲堂	963	世俗一筆啓上〔式亭三馬〕 18.0 × 12.1 袋 一冊 刊 天保十三年 万笈堂英平吉 同大助	962	山の鰯 28.0 × 20.9 袋 一冊 写 元禄五年 寂延僧都	961	山賤記 28.6 × 20.2 袋 一冊 写 貞享三年 厳覚	960	躬恒集・源重之集 27.5 × 19.0 袋 一冊 写 江戸末期 躬恒集・重之集の二集を一冊に合写したもの
969	伊勢物語口伝 23.5 × 17.0 袋 一冊 写 享保三年	968	童訓往来新大成 26.1 × 18.5 袋 一冊 刊 安永八年 銭屋庄兵衛	967	大全新童子往来 26.2 × 18.3 袋 一冊 刊 天保八年 須原屋茂兵衛	966	尺素往来〔一條兼良〕 24.4 × 17.4 袋 一冊 写 長享三年	965	書礼見聞集〔竹井定興〔述〕〕 26.4 × 18.7 袋 十冊 写 江戸中期 卷三・五・七・八・十・十一・十五・十六・十七・十八残存の端本

977 益大 以呂波平仄略韻	976 増補 草中以呂波韻大成〔鎌田禎志庸〕	975 魁本大字諸儒箋解 古文真宝・後集	974 魁本大字諸儒箋解 古文真宝・前集	973 郡山敵打紀	970 撰集抄
17.8 × 6.1 折 一帖 刊	28.1 × 20.6 袋 二冊 刊	26.9 × 19.4 袋 四冊 刊	24.0 × 17.2 袋 一冊 写	25.4 × 18.8 袋 五冊 刊	慶安三年 沢田庄左衛門
天保十三年 村上勘兵衛 柳原喜兵衛		享保元年 文英閣	江戸末期		
松村九兵衛					
982 唐宋詩語玉屑〔高木専助〕	981 詩韻碎金幼字便覧〔伊藤 馨〕	980 詩語碎錦〔蘇門〕	979 詩語碎金・詩語碎金 続編	978 詩語碎錦	
17.6 × 12.2 袋 一冊 刊	11.5 × 15.8 袋 一冊 刊	15.5 × 11.1 袋 一冊 刊	21.3 × 14.6 (続編は 22.2 × 14.4) 袋 二冊 刊	15.4 × 11.1 袋 二冊 刊	22.5 × 15.9 袋 一冊 刊
明治十二年 三木書樓	嘉永二年	明和五年 錦山堂 文林軒 英華堂	安永五年 文化十四年 植村玉枝軒	文化五年 錦山堂 高鱗堂 文錦堂	
		文錦堂			
987 唐詩選〔李千麟〕	986 詩集	985 江吏部集〔大江匡衡〕	984 幼学詩韻・幼学詩韻続	983 平仄童覽	
16.1 × 11.3 袋 一冊 刊	24.2 × 16.6 袋 一冊 写	27.5 × 19.8 袋 一冊 写	21.8 × 14.7 袋 二冊 刊	18.2 × 6.3 折 一帖 刊	明治刊本 但し初版は天保十二年
延享三年 嵩山房	〔辛丑正月〕とあり 鈴木慧充	宝永七年 嚴寛	天保十三年 安永五年 千鍾房 青藜閣	天明五年 畑九兵衛	

992	991	990	989	988
(詩草稿)	(詩稿)	娛息齋詩集	凌雲集〔小野岑守〕	唐詩選〔李千鱗〕
12.3 × 16.8 袋 一冊 写	24.9 × 17.5 仮 一冊 写	22.8 × 16.4 袋 一冊 写	27.5 × 20.2 袋 一冊 写	22.0 × 15.1 袋 三冊 刊
江戸末期 多筆	江戸末期か 多筆	江戸末期	貞享四年 松順	慶応三年 嵩山房
		貞享四年の覚深識語あり		
998	997	996	994	993
明浦吟稿	明風嘯月集	獨詠詩稿	(草稿)	蹴鞠狂吟〔三宅句節〕
23.3 × 16.0 袋 一冊 刊	25.0 × 17.5 仮 一冊 写	23.9 × 16.1 仮 一冊 写	24.2 × 16.5 仮 一冊 写	26.7 × 19.2 袋 一冊 写
文政六年 (序)	明治期	明治七年	江戸末期	元禄二年 覚深
備前 白谷仁科幹著 綾瀬亀田長梓撰	外題に「獨詠詩稿・第二・三偏合」 清水主人			
1004	1003	1002	1001	999
芝園集	文章軌範註釈	新編文語碎金	習文録	黙坐消遺集
27.8 × 19.6 袋 一冊 写	27.2 × 17.0 袋 二冊 刊	21.9 × 14.1 袋 三冊 刊	22.0 × 15.1 袋 八冊 写	26.0 × 18.1 袋 一冊 刊
江戸中頃か	「続文章軌範百家批評註釈」二冊	明治十年 須原屋	明治九年 藤井孫兵衛	慶応四年 無可有舎蔵板
		井孫兵衛刊も含む	「習文録甲乙判」二冊 明治九年 藤	

第三のみ

1005 新錦増補較正
寅幾熊先生 尺牘雙魚

26.6 × 16.4 袋 三冊 刊

承応三年 中野市右衛門
外題(直)は「尺牘双魚」

1006 雲窓隨筆

23.3 × 16.5 袋 一冊 写
外題 辛丑閏正起草

1007 西遊記骨目 棘樹散人撰

26.4 × 18.7 袋 一冊 刊

1009 豊公遺宝図略

25.7 × 18.3 袋 一冊 刊

1014 近江八景詩歌 中將書

25.7 × 18.9 袋 一冊 写
慶応四年

1015 嶽麓寺碑 (唐李邕書)

28.0 × 13.6 折 一帖 刊
安政四年収得 海珍蔵

1016 経緯帖(唐李邕書)

26.9 × 11.4 折 二帖 刊

1017 葉有道碑

26.4 × 12.0 折 一帖 刊
安政三年 海珍蔵

1018 晋王逸少十七帖

26.5 × 16.6 袋 一冊 刊
安井弥兵衛

1019 晋王逸少十七帖

27.1 × 17.4 袋 一冊 刊
正徳五年 書林栗山

1020 行書閣亭帖(菱湖先生書)

26.8 × 16.9 袋 一冊 刊

1021 真行草三体千字文

22.1 × 15.2 袋 一冊 刊
明治二十五年 明昇堂

1022 習字本

32.3 × 17.5 衣 一冊 写

1023 千字文

28.9 × 16.6 袋 二冊 写
享和元年 玄山堂

1024 贅頭日本史客字引(松本高義編)

18.4 × 12.5 袋 一冊 刊
明治十一年 富田彦次郎

1025 皇年代記

27.9 × 19.9 袋 一冊 写
享保二年 嚴寛

1026 明治新刻国史略(石村貞二)

18.2 × 12.3 袋 八冊 刊
明治十二年 東生亀治郎

1032	1031	1030	1029	1028	1027
本朝帝号歌	改正 重補日本外史字類大全〔河村与一郎〕 17.6 × 12.5 袋 四冊 刊 明治十七年 松村九兵衛 他	標註日本外史 22.1 × 15.2 袋 十三冊 刊 明治十七年 田中太右衛門 他	大統歌〔塩谷世弘〕 22.0 × 15.2 袋 一冊 刊 安政六年 快風堂	統神皇正統記 26.0 × 18.9 袋 一冊 写 元禄三年 覚深 外題 統正統記	国史略 26.1 × 18.5 袋 五冊 刊 明治七年 藤井孫兵衛

1038	1037	1036	1035	1034	1033
後鳥羽院御事	水左記 27.9 × 20.9 袋 一冊 写	山槐記 28.1 × 20.2 袋 十二冊 写 元禄七年 覚深校訂の識語 第五冊は元禄十一年	後二條関白記 26.8 × 19.5 袋 四冊 写	先代旧事本紀拔書 27.0 × 16.3 袋 一冊 写	類聚国史 27.8 × 20.0 袋 二冊 写 享保六年
					17.2 × 12.5 袋 一冊 写 盛直

1043	1042	1041	1040	1039
因幡国取鳥軍之事	椿葉記 後崇光院御記〔道欽親王〕 26.7 × 19.5 袋 一冊 写 貞享四年 松順 覚深の識語あり	長禄記 28.4 × 20.5 袋 一冊 写 貞享五年 厳覚	永享記 29.0 × 20.3 袋 一冊 写 元禄七年 覚深か	梅松論 28.0 × 19.1 袋 一冊 写 近世中期 乾のみ
				27.8 × 20.3 袋 一冊 写

1048	1047	1046	1045	1044
小牧長久手戦記 27.7 × 19.4 袋 一冊 写 貞享四年 寛深 貞享四年 寛深 宝永五年 厳覚の識語	江州志津ヶ嶽合戦覚書 23.8 × 17.3 袋 一冊 写	金山記 23.7 × 16.6 袋 一冊 写 宝永八年 厳覚	加越軍記〔岡本慶雲〕 26.3 × 18.6 袋 一冊 写 宝永四年 虫損 宝永四年の厳覚識語あり	桶狭間合戦略記 24.8 × 16.9 袋 一冊 刊 24.7 × 17.4 袋 一冊 写

1053	1052	1051	1050	1049
室町殿日記〔槽村長教〕 27.7 × 18.9 袋 一冊 写 江戸中期 卷一―四 外題〔直〕は「室町記」 雞	濃州関ヶ原御陣拔書 23.7 × 17.2 仮 一冊 写 江戸後期か	中州軍記 27.2 × 19.4 袋 一冊 写 享保三年 厳覚 外題は「中州記」	丹州三家物語 28.3 × 20.3 袋 一冊 写	関ヶ原合戦記 27.9 × 19.7 袋 一冊 写 貞享四年 長野氏 外題 関原軍記 貞享四年 寛深 宝永 五年 厳覚の識語

1058	1057	1056	1055	1054
史記評杯	大坂木挽一件 24.2 × 17.4 仮 一冊 写 江戸後期	淡海温故録 27.8 × 19.8 仮 四冊 写 明治初期 徳順か	樗井合戦記 27.5 × 19.8 袋 一冊 写 宝永七年 厳覚 外題は「樗井記」	六代君物語 24.0 × 16.8 仮 一冊 写 江戸初期 後半欠文

1066	1063	1061	1060	1059	
扶桑隱逸伝(元政)	上宮太子御遺言記註	増補元明史略	新纂挿画十八史略字引大全	標纂十八史略校本	26.2 × 18.6 袋 二十五冊 刊
26.4 × 16.8 袋 三冊 写	27.5 × 19.2 袋 一冊 写 貞享二年 厳寛	26.8 × 18.3 袋 四冊 刊 明治八年 藤井孫兵衛 宝暦元年原版	17.8 × 12.2 袋 四冊 刊 明治十六年 梅原亀七	12.0 × 8.4 袋 四冊 刊 明治十二年	延宝二年 八尾甚四郎友春

1072	1071	1070	1069	1068	1067
職員録	袖玉 武鑑 7.0 × 16.4 袋 一冊 刊 慶応二年 須原屋茂兵衛	諸御役目録 15.9 × 11.4 袋 一冊 刊	月卿雲客之次第 ^並 地下官人等 14.7 × 21.5 仮 一冊 写 江戸後期か	慶応四年 須原屋茂兵衛他 8.3 × 18.3 袋 一冊 刊 雪上御役之部 便覧	大日本史名乗字引 12.0 × 8.8 袋 一冊 刊 天保十年 小谷卯八郎 萩原宗兵衛
					寛文四年 銅駝坊書肆村上氏

1080	1079	1078	1077	1075	
標題徐状元補注蒙求読本 25.9 × 18.6 袋 三冊 刊	新蒙求国字弁 22.4 × 16.2 六冊 刊 安永六年 植村藤右衛門他	頭出 蒙求校本字引大全 17.6 × 12.3 袋 一冊 刊 明治十六年 北村孝二郎	東照大権現開運録 24.5 × 17.0 袋 一冊 写 江戸後期	賊考談 23.1 × 17.1 袋 二冊 写 序文に「千時寛文末年孟夏中旬」とあり	12.1 × 18.2 袋 一冊 刊 和泉屋市兵衛 須原屋茂兵衛

1085	近江村名覚 27.8 × 21 袋 一冊 写	1084	有馬湯山略記 26.7 × 19.6 袋 一冊 写 万治元年 内題は「摂州有馬郡湯山略記」	1083	日本地誌略便覧 17.5 × 12.5 袋 一冊 刊 明治九年 田中文求堂	1082	補増 皇国地名一覽 12.2 × 18.0 袋 一冊 刊 明治八年 東崖書屋	1081	万国往来 22.6 × 15.6 袋 一冊 刊 明治四年 錢屋惣四郎他 桑林堂 中野啓蔵 外題は「箋註蒙求校本」
1090	帝国文證大金（原田道義） 22.9 × 15.9 袋 一冊 刊	1089	御布令字引 12.4 × 8.6 袋 一冊 刊 明治元年 平野屋茂兵衛他	1088	名香合（判者肖柏） 28.3 × 20.2 袋 一冊 写 江戸中期 寛深の筆を含むか	1087	肥前国風土記 27.8 × 19.6 袋 一冊 写 享保二年 貞晟書写 一卷のみ	1086	城州八瀬村御教書 並 所司代下知状 23.5 × 16.8 袋 一冊 写 江戸中期 雞頭院蔵の墨書あり
1095	禁中年中行事 23.8 × 17.3 袋 一冊 写	1094	院中礼節 附 路頭礼事 書札礼事 15.2 × 21.6 袋 一冊 写 延宝四年 雞頭院蔵	1093	京將軍家 並 管領諸式 27.4 × 19.4 袋 一冊 並 正徳元年 嚴寛	1092	復神 武帝勅五憲法 26.4 × 18.4 袋 一冊 刊 小川多左衛門	1091	公武大体略記 24.2 × 16.6 袋 一冊 写 室町期か 雞足院莊蔵 明治十一年 水野慶治郎

1	西洋 宗教実理審論	活字本	1099	三條中山口伝 29.2 × 20.4 袋 一冊 写 元禄五年 寛深	1098	御即位 ^並 御元服之為御祝儀関東献上 14.1 × 42.6 袋 一冊 写	1097	公家御元服記 27.8 × 19.9 袋 一冊 写 元禄六年 厳寛	1096	江戸後期か 当時禁裏年中行事 22.9 × 15.4 袋 一冊 写 江戸中期 寛保元年…求之 良謹蔵
---	--------------	-----	------	---	------	---	------	---	------	--

1104	栽培経済論〔佐田介石〕 23.3 × 15.8 袋 四冊 刊 明治十二年 永田調兵衛他	1102	類聚雜要抄 29.2 × 20.7 袋 四冊 写 元禄五年 寛深 第三冊元禄十一年寛英に書写させる	1101	復辟次第 27.5 × 20.0 袋 一冊 写 宝永五年厳寛伝領	1100	大槐秘鈔〔九条伊通〕 28.5 × 20.9 袋 一冊 写 元禄五年 在中将公韶 元禄六年寛深が対校 類従本の底本の もとの本か
------	---	------	--	------	--	------	--

2	第十四 議會 宗教法案之顛末	1111	辻井徳順履歴 影印本 一冊 観音正寺の野紙に墨書したものを写真 撮影したもの	1110	教林蔵々書目録 影印本 一冊 比叡山延暦寺の野紙に教林坊の蔵書目 録をペン書したものを写真撮影したもの	1106	食品国歌 22.6 × 16.0 袋 一冊 刊 天明七年 勝村次右衛門他	1105	商家秘録 15.8 × 11.2 袋 一冊 刊
---	-------------------	------	---	------	--	------	--	------	----------------------------

3	新宗教論
4	神州元氣
5	日本宗教風俗志
7	一実神道記
81	山王秘密参社について
96	天理教会秘密談
97	日吉秘密社参手文
98	實際 <small>討論</small> 弁斥天理教
104	通俗仏教百科全書
105	仏教学講義録
106	仏教講義 仏教寺修科講義録（逐刊）

107	仏教講義録（逐刊）
108	仏道新論
110	密門雜抄
111	安心立命説
112	護法論国字疏
113	護法論国字疏
119	日本宗教未来記
120	涅槃義
122	衛生と仏教
124	呻吟語
125	精神 <small>宗用</small> 義夫の奉公

127	護法大演説
132	八万四千 <small>四</small> 地蔵尊因縁略抄
142	説教帷中策
143	改良 <small>新撰</small> 説教教学
144	説教洒落囊
146	明治僧侶必携・第二編・第三編
147	通仏教安心
151	譬喩 <small>自在</small> 一口法話
152	仏教演説軌範
158	弥陀之実體
159	六波羅密

160	日本之教学（逐刊）
161	叡山大師伝
164	貫昭国師遺稿集・全
167	慶運大僧正
170	皇朝天台史略
171	山家正統宗門尊祖議
182	慈恵大師御略伝
199	真如之月影
200	随縁迹
215	天台座主大僧正源応大和尚行状記
217	天台宗本朝四大師略伝
232	日本仏教史綱
233	日本仏教史綱
235	平安奠都仏教史
243	楞嚴王院慈鑑大僧正行状記
245	恵心僧都御選述目録
252	伝教大師御撰述目録
269	梶井三千院門跡由緒記
277	国分寺の記
281	西国観音縁起集
282	西国観音縁起集
283	西国観世音霊場詩偈集
294	四天王寺由緒沿革記
306	中尊寺案内誌
389	諸大宗数珠纂要
392	教家 必携 法鐘要論
417	六合釈講述
420	仏典講義録（逐刊） 自第一五号至第二〇号
422	地藏比丘の余影
428	孟蘭盆経講談
436	通俗観音経講話
437	観音経和談鈔図会

446	金光明最勝王經達意	629	教示章要解	755	天台宗綱要
474	法華玄籤開講演義 附・釈籤縁起序（附慧澄和尚科）	630	教時評論	772	日本天台における円戒儀則の発達
484	遺教経講義	648	皎然大僧正遺稿集	781	比叡山仏教講演集
544	円頓宗眼訳述	674	山家学生武	812	裸堂国師遺稿
559	十不二門指要鈔国字統	694	授戒説教（原名・戒会落草談）	839	光明真言功德述讃
561	十不二門論講義	701	称名庵雜記 前後編―八卷	848	真言の要諦
591	原人論講義	721	台宗小学科読本	871	現世利益和讃略解
603	一心金剛戒体秘決	735	台門勸導ノ栞	873	三法語略解
606	円頓戒要義	738	台門初步	874	四十八願喚鈔
614	台学戒密綱要	748	天台円宗中学林遮那業勤行次第	876	六條学報（逐刊）二〇〇号 真宗法要研究号
627	台学教観綱要	750	天台学講義録		

924	東洋哲学（逐刊）	907	和語陰陽錄	906	和語陰陽錄	899	妖怪学講義	895	哲学館講義録	894	聾牙遺稿	887	新約四福音書 聖書	882	冠普勸坐禅儀 註	879	登站目獵漁御文説教 第三通	877	善惡種時鏡
-----	----------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	--------	-----	------	-----	--------------	-----	-------------	-----	------------------	-----	-------

1013	訂正日本美術画家人名詳伝 増補	1012	日本美術画家人名詳伝補遺	1011	図絵宝鑑人名詳伝	1010	山中人饒舌	1008	教育卜宗教ノ衝突	1000	默嘯詩稿	995	探題詩稿	972	沙石集	971	国文摘釈
------	--------------------	------	--------------	------	----------	------	-------	------	----------	------	------	-----	------	-----	-----	-----	------

1109	日露戦争記	1108	東洋戦争実記	1107	凱旋紀念帖	1103	二十三年未来記	1076	藤樹先生	1074	史海（逐刊）	1073	菅公伝	1065	聖徳皇太子雪冤	1064	聖徳皇太子御伝	1062	安徳天皇御事蹟論
------	-------	------	--------	------	-------	------	---------	------	------	------	--------	------	-----	------	---------	------	---------	------	----------